

第2章 村の特性と課題

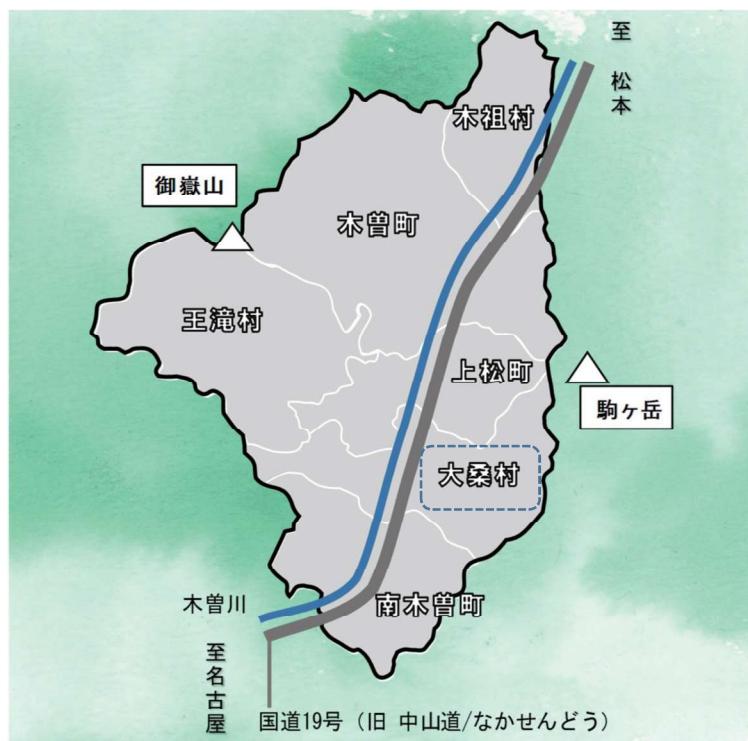
I. 村の概況

(1) 位置と地勢等

本村は長野県の南西部、木曽郡の南部に位置し、東西約30km、南北約10km、総面積は234.47km²で、東は南駒ヶ岳、空木岳など中央アルプスの山々によって伊那谷に接し、南は南木曽町に、西は奥三界岳によって岐阜県中津川市及び王滝村に、北は上松町に隣接しています。また、海岸から遠く離れた内陸に位置していることから、昼夜の気温差や一年のうちで最も高い月の平均気温と最も低い月の平均気温との差が大きく、湿度が低い特性があります。冬季は季節風が山脈を越えてくるため空気が乾燥し、晴れの日が続きますが、北からの冷たい気流が流れ込むと大雪になることもあります。

地勢をみると、村の中央部を北東から南西にかけて流れる木曽川へ、伊那川、殿小川、阿寺川等の中小河川が流入し、起伏の激しい複雑で急しゅんな地形を成しています。また、総面積の95.8%を森林が占め、集落、耕地は木曽川とその支流の比較的平坦な標高500m~800mの地域に小規模に散在しています。

交通条件をみると、村の中央部を横断する木曽川の流れに沿って国道19号、JR中央西線が走っており、中津川市まで33km、木曽町まで24kmの距離にあり、名古屋空港及び松本空港までそれぞれ車で約2時間、中部国際空港まで車で約3時間の距離にあります。



(2) 人口・世帯の動向

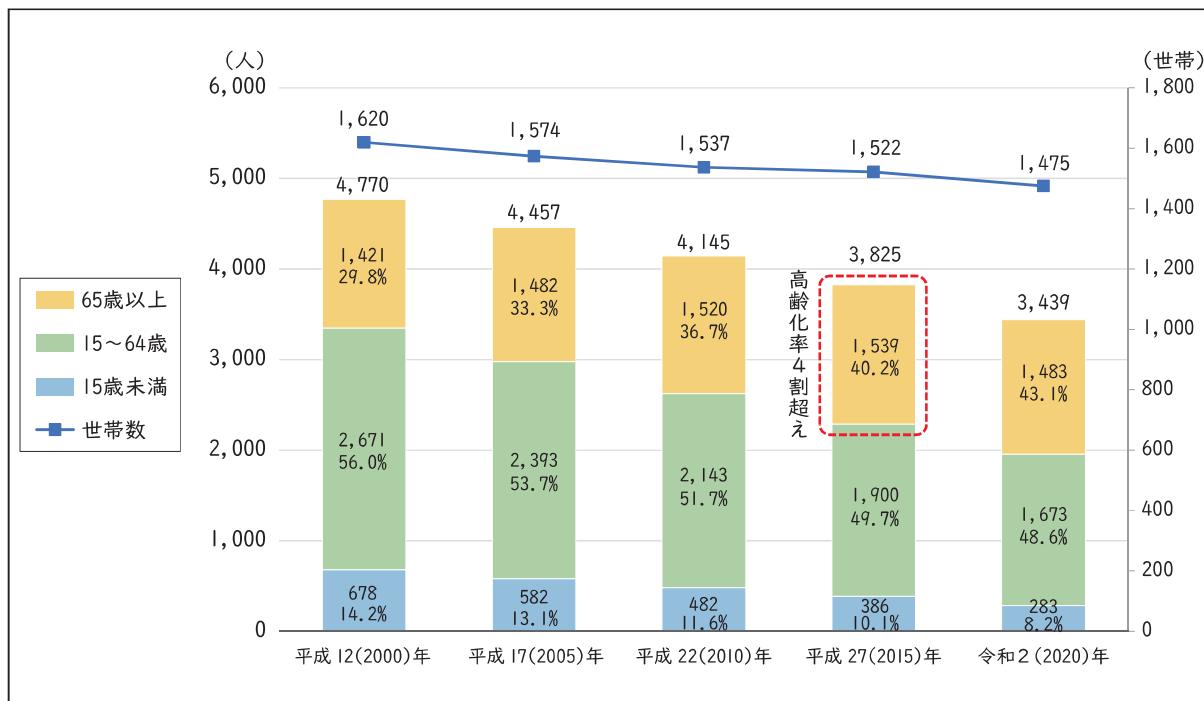
本村の総人口は、令和2（2020）年の国勢調査では3,439人となっており、減少傾向で推移しています。

年齢3区分別にみると、15歳未満の年少人口は283人（8.2%）、15歳から64歳までの生産年齢人口は1,673人（48.6%）、65歳以上の老人人口は1,483人（43.1%）となっています。

世帯数については令和2（2020）年は1,475世帯となっており、総人口と同様に減少傾向が続いているです。

国及び県と年齢構成比率を比較すると、年少人口比率、生産年齢人口比率は国平均や県平均を下回る一方で、老人人口比率は、国平均や県平均を大きく上回り、住民の4割以上が65歳以上となるなど、少子高齢化が進んでいます。

【人口等の推移】



資料：国勢調査

【国・県との年齢構成比率の比較（令和2（2020）年）】

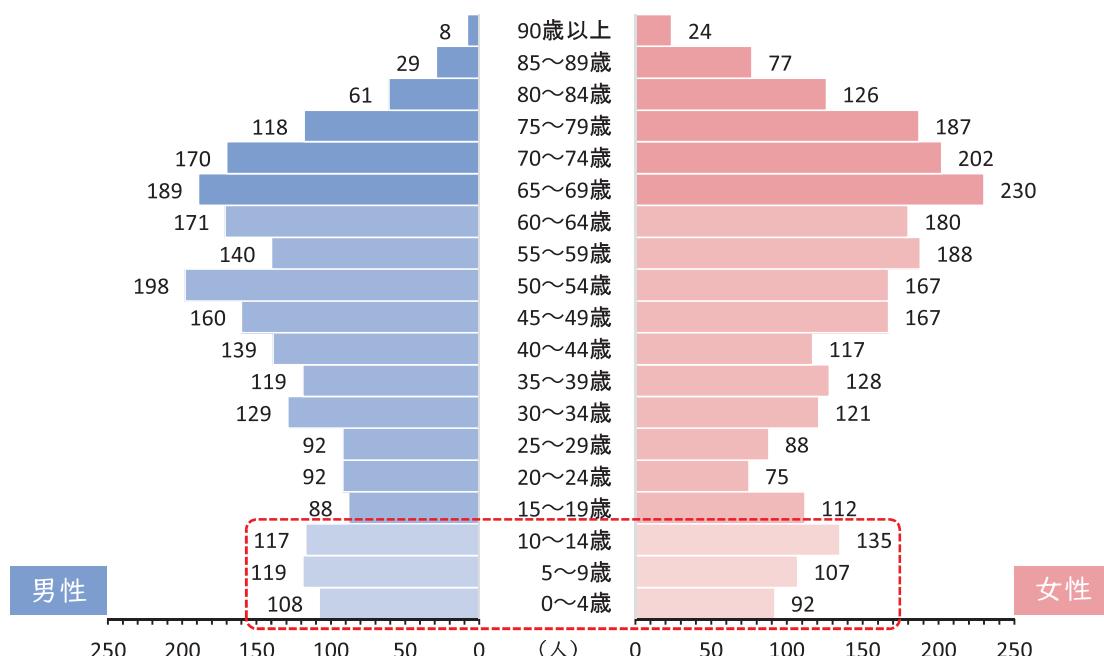
	大桑村	長野県	国
年少人口（15歳未満）	8.2%	12.0%	11.9%
生産年齢人口（15～64歳）	48.6%	56.1%	59.5%
老人人口（65歳以上）	43.1%	32.0%	28.6%

※小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため合計が100%を上下する場合もあります。

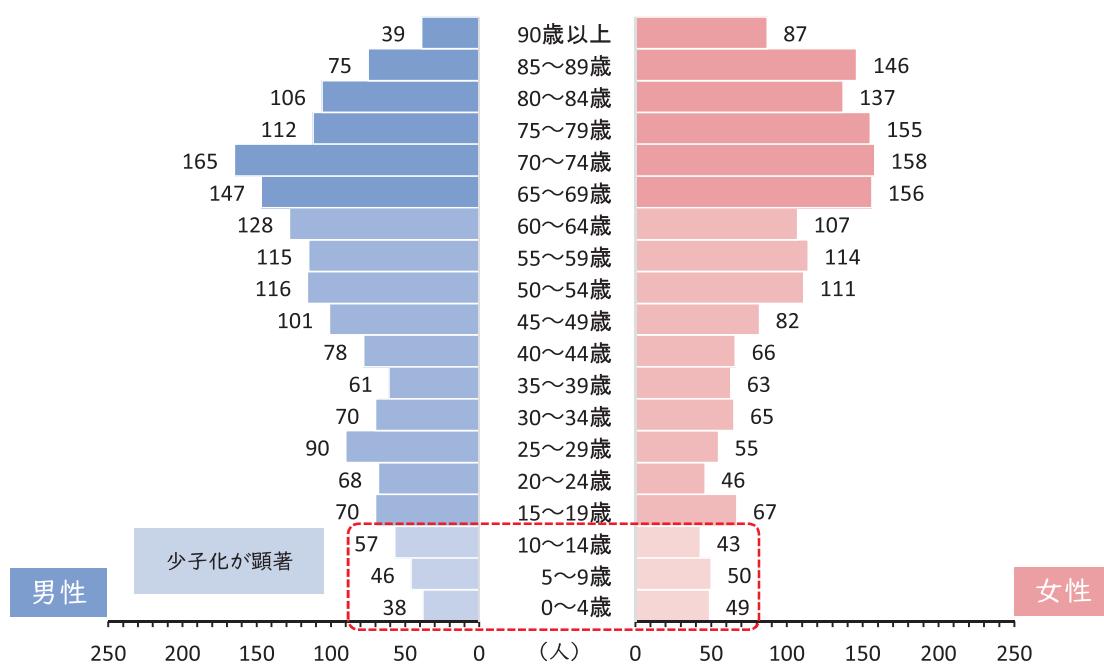
(3) 人口構成

人口ピラミッドから本村の人口構成をみると、令和2（2020）年では、平成12（2000）年と比べ、年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15～64歳）の層が小さくなっています。また、老人人口（65歳以上）の層は80歳以上で厚みが増し、全体でやや大きくなっています。この20年間で特に少子化が顕著となっています。

【人口ピラミッド（平成12（2000）年）】



【人口ピラミッド（令和2（2020）年）】

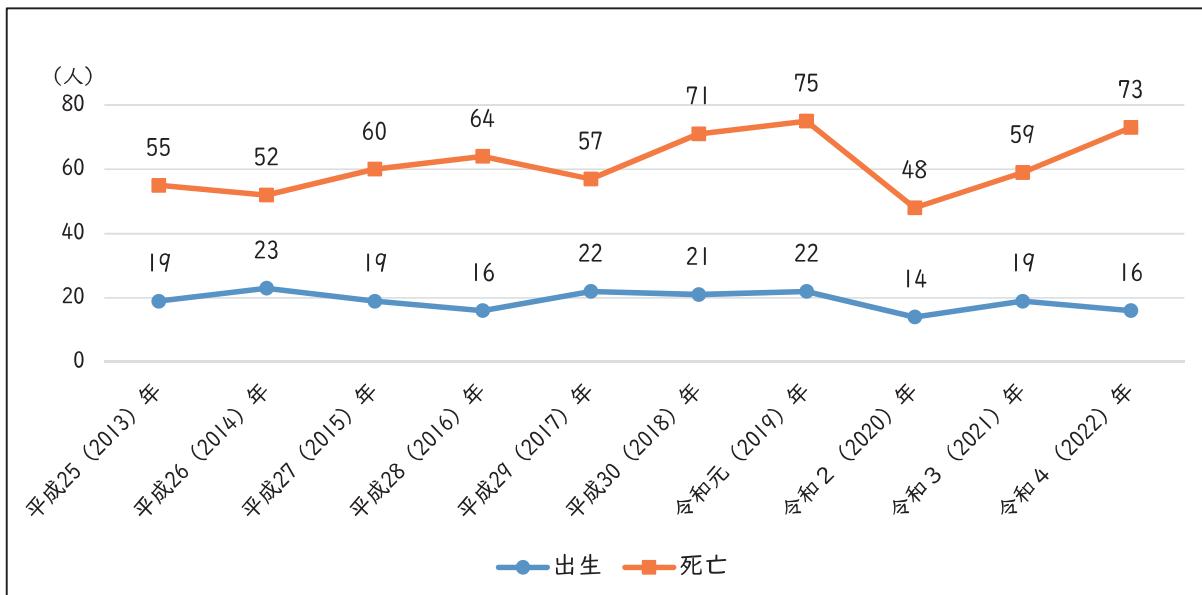


資料：国勢調査

(4) 人口動態の動向

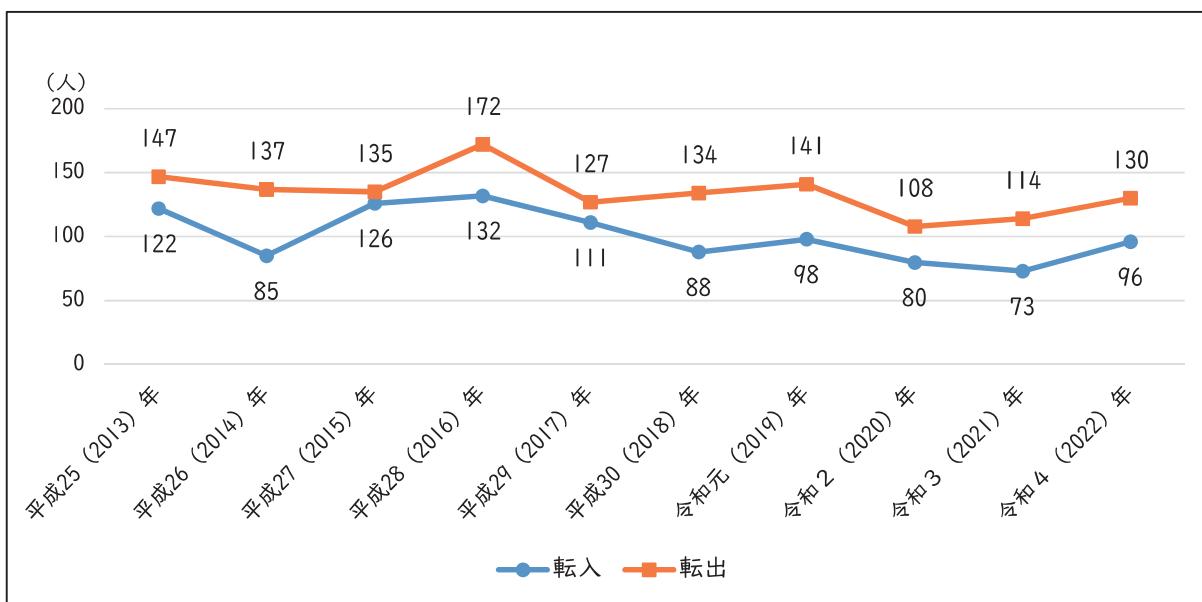
自然動態については、死亡数が出生数を上回る自然減の傾向で推移しています。

【自然動態の推移】



社会動態については、転出数が転入数を上回る社会減の傾向で推移しています。

【社会動態の推移】



資料：大桑村統計書

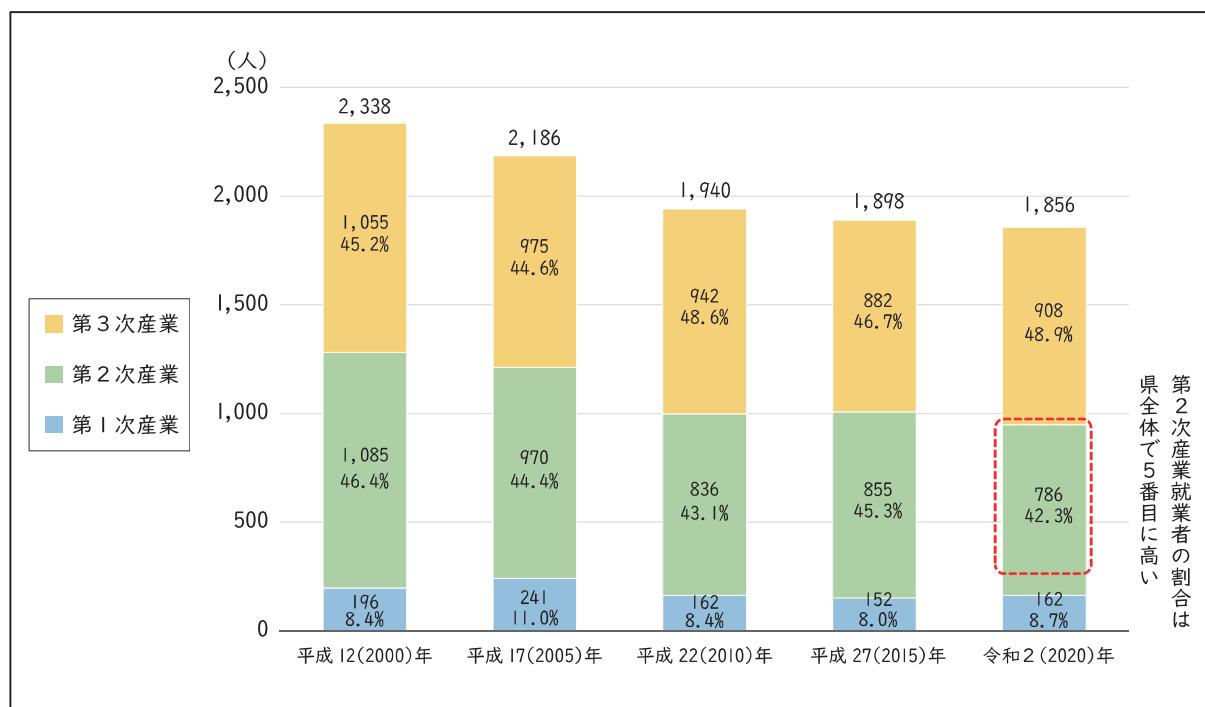
(5) 人口動態の動向

国勢調査による本村の就業者数の推移をみると、減少傾向で推移しており、令和2（2020）年では1,856人となっています。

産業3部門別にみると、農業などの第1次産業は162人（8.7%）、製造業、建設業などの第2次産業は786人（42.3%）、小売業、サービス業などの第3次産業は908人（48.9%）となっています。

国及び県と比較すると、第2次産業については構成比率（42.3%）が国平均（23.4%）や県平均（28.7%）を大きく上回り、本村の産業の特色となっています。

【就業者数の推移】



資料：国勢調査

【国・県との産業別構成比率の比較（令和2（2020）年）】

	大桑村	長野県	国
第1次産業	8.7%	8.5%	3.2%
第2次産業	42.3%	28.7%	23.4%
第3次産業	48.9%	62.8%	73.4%

※小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため合計が100%を上下する場合もあります。

2. 村の特性

むらづくりを進める上では、地域資源やこれまでのむらづくりの成果など地域特性を最大限に活かしたむらづくりを進めることが重要です。こうした本村の代表的な特性を整理すると次のとおりとなります。

特性1

木曽川、阿寺渓谷など豊かな自然に包まれ、水と緑の優れた自然環境・景観を誇るとともに、こうした自然を体感できる観光・交流施設がある村

豊かな自然環境

村域のほとんどが森林で覆われ、木曽川とその支流によって豊かな水が供給されており、美しい自然環境と南駒ヶ岳をはじめとする中央アルプスの山々が圧巻の景観を提供しています。

三色桃発祥の地

本村は、日本で三色桃が初めて育てられた場所と言われており、村の各所でその美しい花を楽しむことができます。

観光スポット

本村には「阿寺ブルー」と呼ばれる阿寺渓谷をはじめ、村内唯一の温泉を有するフォレスパ木曽、村の特産品や食文化が楽しめる「道の駅大桑」、自然を満喫できるのぞきど森林公園や中央アルプス越百山などがあり、多くの観光客が訪れています。



阿寺渓谷は四季折々に異なる美しい景色を楽しむことができますが、特にその美しさで知られるのは流れる水そのもの。阿寺川の水は、エメラルドグリーンで透明度が高く、水の美しさと自然の静けさが、訪れる人々に癒しと感動を提供しています。

特性2

須原宿、野尻宿など宿場町の風情が残り、定勝寺、白山神社など中山道の歴史が息づく村

定勝寺

定勝寺は重要文化財であり、その歴史は古く、寺院の建造物や文化財が保存されています。春のしだれ桜、秋のもみじ、趣のある庭園などは、訪れる人々に静けさと精神的な豊かさを感じさせてくれます。

白山神社

白山神社も重要文化財の一つで、神聖な雰囲気と歴史を感じさせる社殿の建築物が特徴です。元弘4（1334）年に建立され、白山神社、熊野神社、伊豆神社、蔵王神社の4社殿が鎮座し、現存する社殿建築としては信濃最古のものです。鎌倉時代の建物が数百年の歳月を経て地域の人々に大切に守られている、貴重な神社となっています。

池口寺薬師堂

池口寺に伝わる薬師堂は鎌倉時代の建物です。時代の変遷を示す貴重な文化財として平成2（1990）年に長野県宝に指定されました。

岩出觀音

江戸中期に建立された長い歴史を持つ觀音堂は、その美しい懸崖造りが特徴です。この懸崖造りは、京都の清水寺と似ており、「木曽の清水寺」と呼ばれています。觀音堂には絵馬や筏流しなどの歴史ある絵が多く保存されています。

須原宿

木曽谷の中では一番古くに栄えた歴史ある宿場町です。昔から清水が湧き、現在も丸太をくり抜いて作った「水舟」が置かれており、風情を感じます。大桑村指定無形文化財「須原ばねそ」や宿場のはずれにある定勝寺が有名です。

野尻宿

野尻宿は、木曽11宿の中でも特に長い町並みを誇ります。「七曲がり」として知られ、外敵からの攻撃を防ぐための曲がりくねった街道が特徴です。野尻宿は、その風景により、訪れる人々に古き良き宿場町の雰囲気を楽しむ機会を提供しています。

特性3

県内でも上位の一人あたり製造品出荷額を誇る工業の村

近代化産業遺産の水力発電所

本村では、木曽川水系からの豊富な水を利用した水力発電所が9か所稼働しており、大桑発電所及び須原発電所は経済産業省の近代化産業遺産に登録されています。また、これは持続可能なエネルギーの供給に貢献しています。

レンガ造りの大桑発電所は、大正10年に大同電力（現在の関西電力の前身）の福沢桃介によって建造されたもので、大正時代の美しいデザインを持っています。

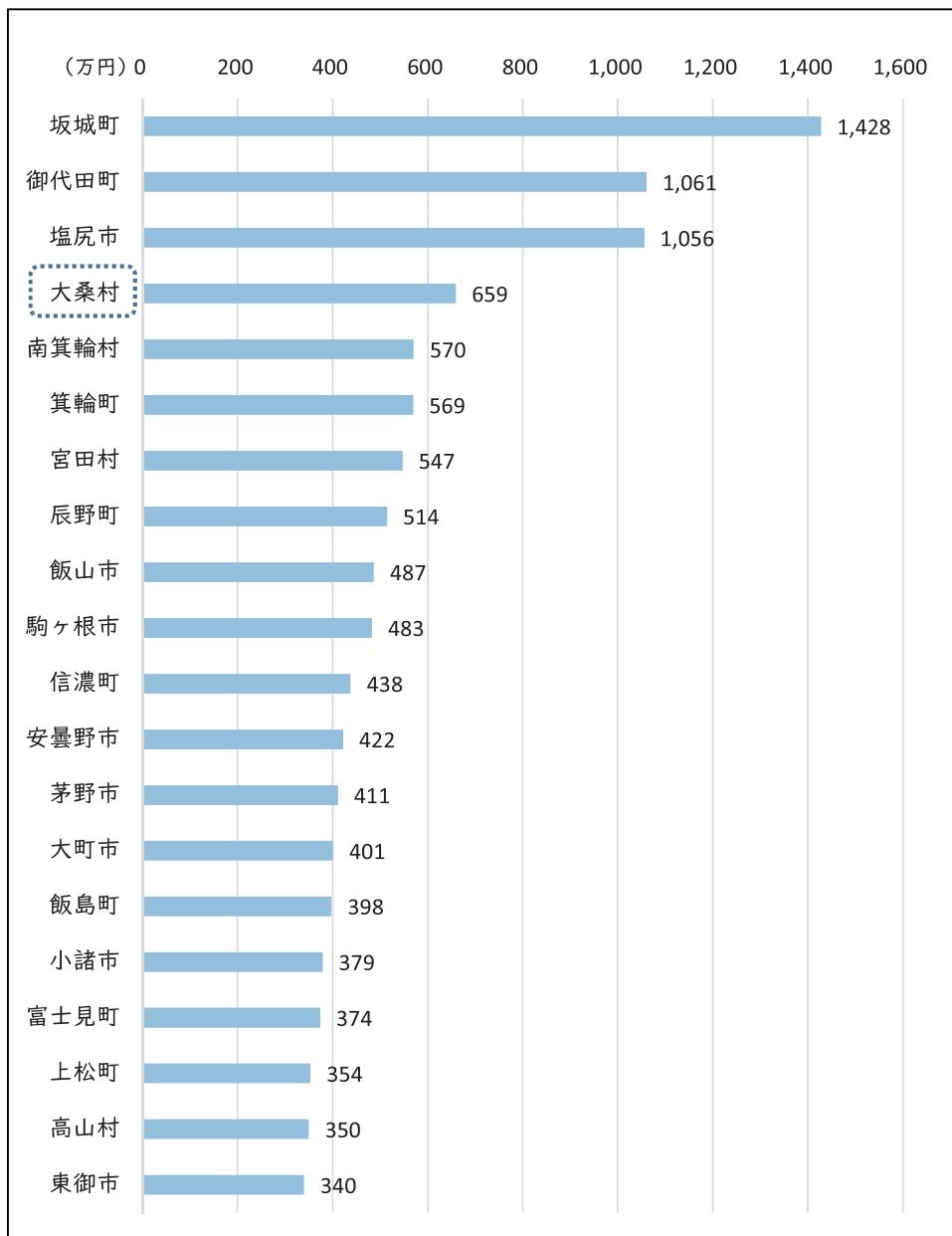


県内で上位の一人あたり製造品出荷額

本村は、自動車関連産業を中心とした製造業が地域経済において重要な位置を占め、木曽郡内で最大の製造品出荷額を誇っています。

また、県内においても一人あたり製造品出荷額では第4位となっています。

【県内における一人あたり製造品出荷額(上位20)】



資料：経済産業省 工業統計調査(令和2(2020)年)

特性4

住民と連携して、子どもから高齢者まで住民の健康・福祉の増進やふれあいの地域づくりに取り組む、みんなの顔がみえる村

社会福祉協議会を中心とした、ふれあいの地域づくり

本村では、村の施策だけでは解決できない福祉に関連する様々な課題に、社会福祉協議会が中心となって取り組んでおり、村や保健、医療、福祉などの関連機関と連携し、地域の住民と協力して、ふれあいの地域づくりを推進しています。

高齢者福祉、障がい福祉、防災、教育、またそこで携わる人の雇用など、社会福祉協議会の村への役割は非常に重要なものとなっています。

また、これらの取り組みは、ボランティア、関係団体、企業等に支えられており、すべての住民が協働したむらづくりが大桑村の魅力のひとつと言えます。

子育てしやすい地域づくり

本村では、安心して子育てができる環境づくりのために、妊婦・産婦のサポートや子どもの健康に対する支援に力を入れています。

☆産前のサポート

- ・母親学級
- ・妊婦健診の費用助成
- ・不妊・不育治療への費用助成

☆産後のサポート

- ・産婦健診の費用助成
- ・育児相談
- ・保健指導
- ・予防接種の費用助成 等

3. 総合計画策定のためのアンケート調査結果

本計画の策定にあたって、住民アンケート及び小・中学生アンケート調査を実施しました。ここでは代表的な設問結果を抜粋しています。

(1) 調査目的

本調査は、第6次大桑村総合計画の策定にあたって、村への愛着度やこれからの定住意向をはじめ、村の現状に関する満足度やこれからの取り組みの重要度、むらづくりの特色など、村民の意識構造の実態を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法

【住民】

項目	内 容
調査対象	16歳以上の住民
配 布 数	1,650
抽 出 法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収及びWeb回答
調査時期	令和4年12月
調査地域	村内全域

【小・中学生】

項目	内 容
調査対象	小学5~6年生 中学1~3年生
配 布 数	小学生43人 中学生53人
抽 出 法	全数調査
調査方法	学校での配布・回収
調査時期	令和4年12月
調査地域	村内全域

(3) 配布数及び回収結果

【住民】

配 布 数	1,650
有効回収数	637
有効回収率	38.6%

【小・中学生】

配 布 数	小学生 43 中学生 53
有効回収数	小学生 32 中学生 47
有効回収率	小学生 74.4% 中学生 88.7%

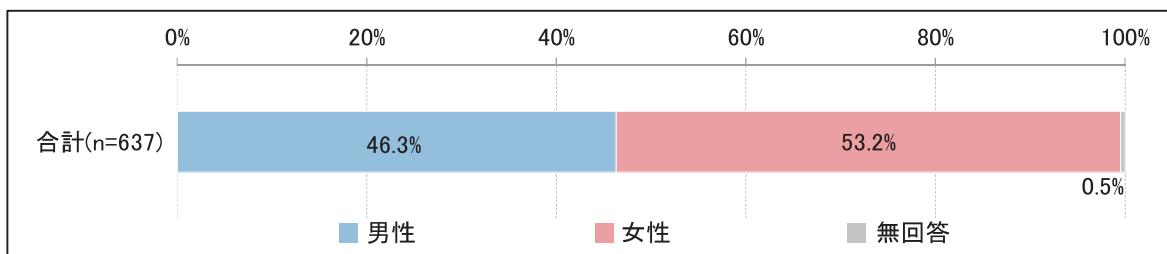
(4) 数値の基本的な取扱いについて

- 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。
したがって、合計が100%を上下する場合もあります。
- 基数となるべき実数は、“ $n=○○○$ ”として掲載し、各比率は n を100%として算出しています。
- 質問の終わりに【複数回答】とある時は、1人の回答者が2つ以上の回答を出して もよい問であり、したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- 文中、グラフ中の選択肢の文言は作図等の都合により一部簡略化する場合があります。

(5) 回答者の属性（住民）

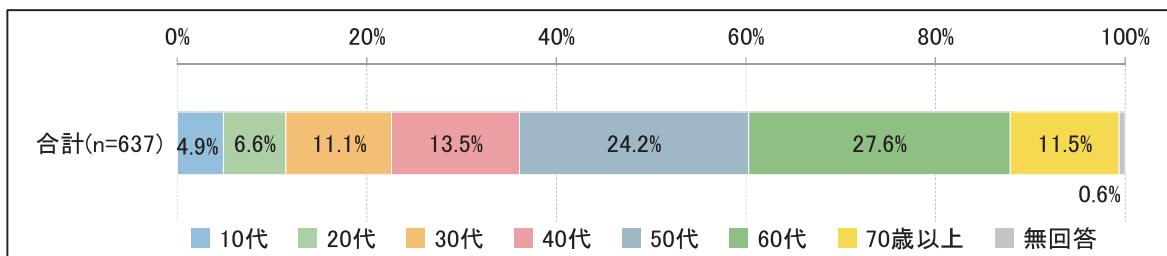
①性別

回答者の性別は、「男性」が46.3%、「女性」が53.2%となっています。



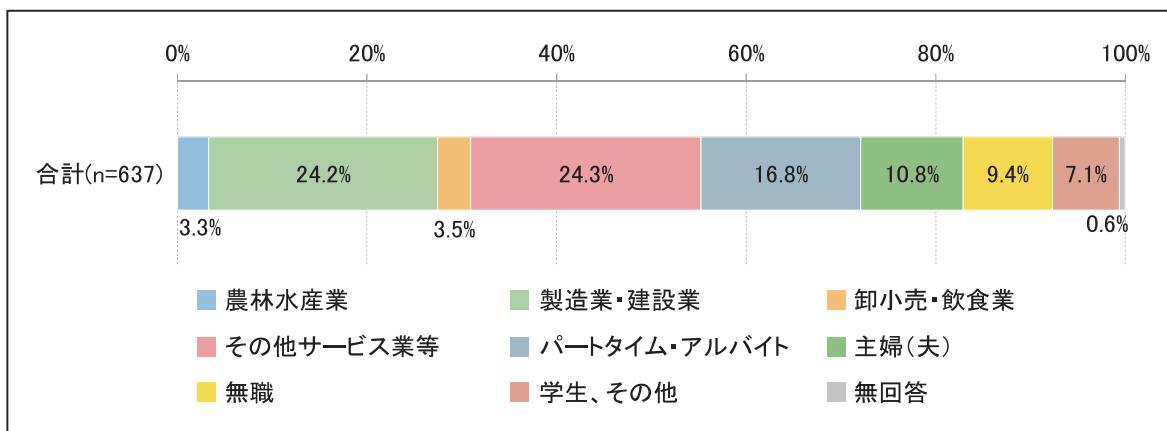
②年齢

回答者の年齢は、「60代」が27.6%と最も高く、次いで「50代」(24.2%)、「40代」(13.5%)、「70歳以上」(11.5%)、「30代」(11.1%)、「20代」(6.6%)、「10代」(4.9%)となっています。



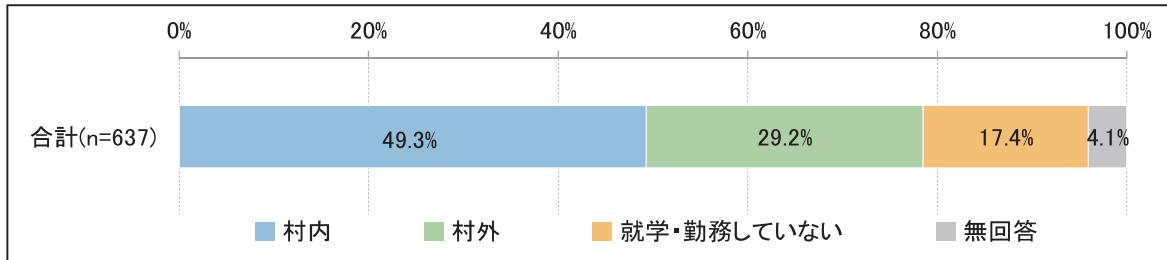
③職業

回答者の職業は、「その他サービス業等（公務員を含む）」が24.3%と最も高く、次いで「製造業・建設業」(24.2%)、「パートタイム・アルバイト」(16.8%)、「主婦（夫）」(10.8%)、「無職」(9.4%)、「学生、その他」(7.1%)、「卸小売・飲食業」(3.5%)、「農林水産業」(3.3%)となっています。



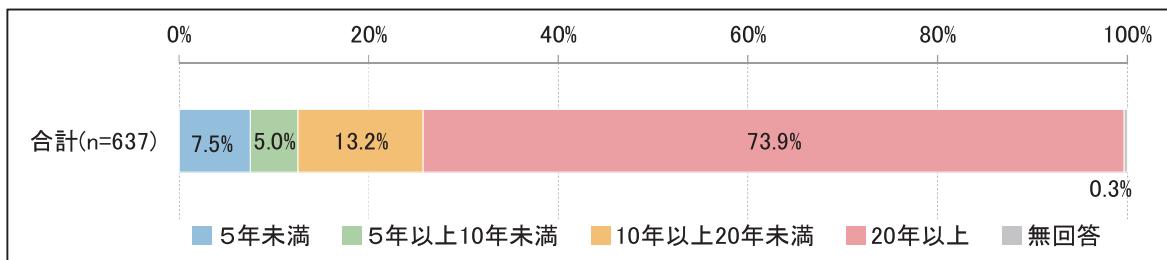
④就学先・勤務先

回答者の就学先・勤務先は、「村内」が49.3%と最も高く、次いで「村外」(29.2%)、「就学・勤務していない」(17.4%)となっています。



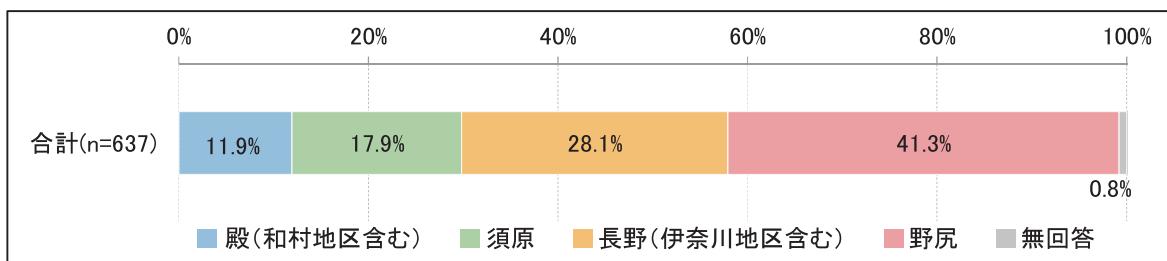
⑤居住年数

回答者の居住年数は、「20年以上」が73.9%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」(13.2%)、「5年未満」(7.5%)、「5年以上10年未満」(5.0%)となっています。



⑥居住地区

回答者の居住地区は、「野尻」が41.3%と最も高く、次いで「長野(伊奈川地区含む)」(28.1%)、「須原」(17.9%)、「殿(和村地区含む)」(11.9%)となっています。



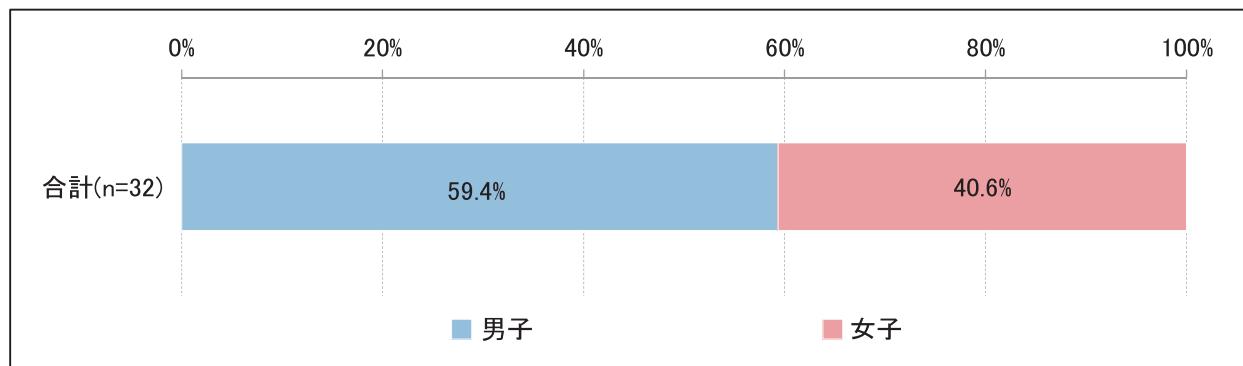
(6) 回答者の属性（小・中学生）

①性別

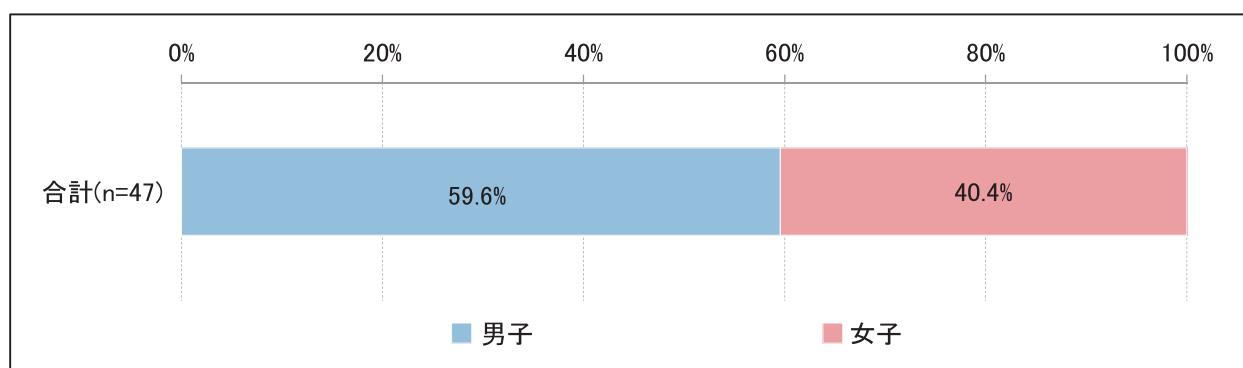
性別については、小学生では「男子」が59.4%、「女子」が40.6%となっており、「男子」のほうが18.8%高くなっています。

中学生では「男子」が59.6%、「女子」が40.4%となっており、「男子」のほうが19.2%高くなっています。

【小学生】



【中学生】

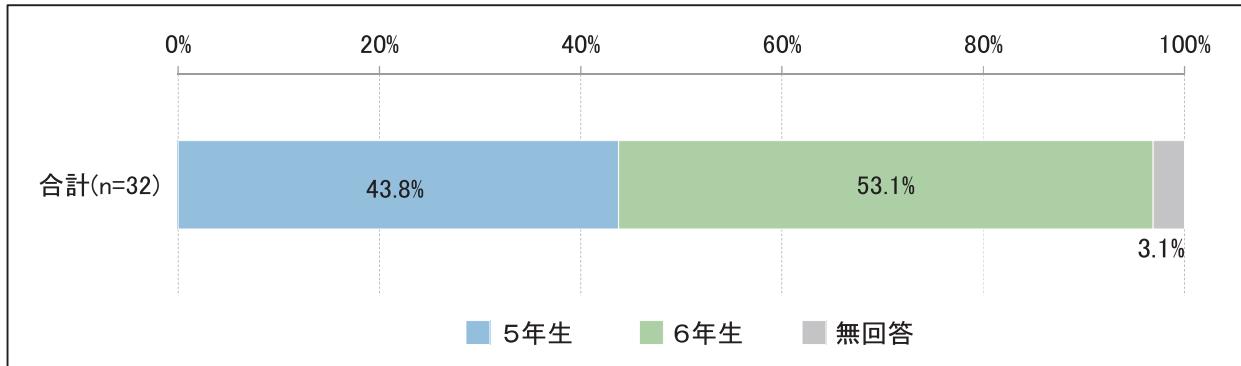


②学年

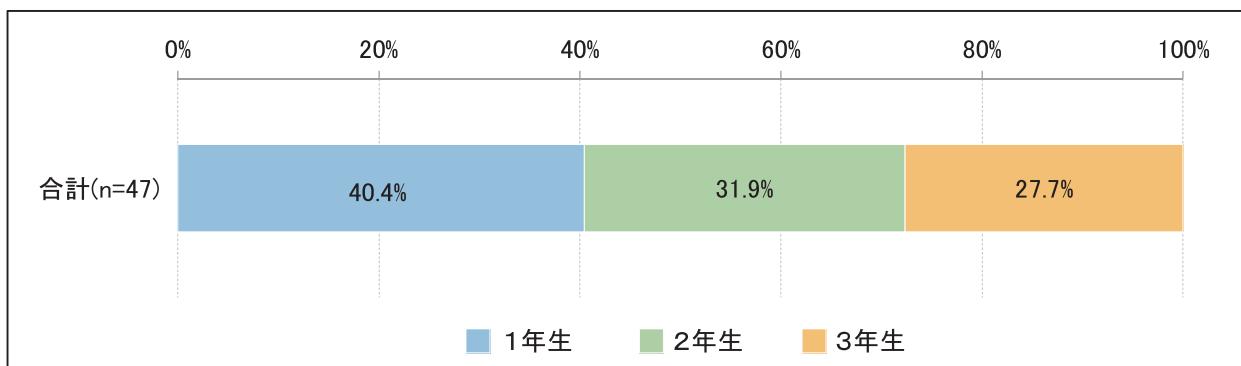
学年については、小学生では「6年生」が53.1%と最も高く、次いで、「5年生」が43.8%となっています。

中学生では「1年生」が40.4%と最も高く、次いで、「2年生」が31.9%、「3年生」が27.7%となっています。

【小学生】



【中学生】



現在のところ「日本一大きな顔」とされ、全国的な注目を集めています。

村内の大野遺跡で見つかったこの土器は、縄文時代中期（約4～5千年前）の竪穴住居跡から出土しました（人面装飾付有孔鍔付土器）。

平成30（2018）年に県宝に指定され、公募の中から“悠久のほほ笑み”が愛称に選ばれました。

これを記念して製作したピンバッジは好評を得ています。

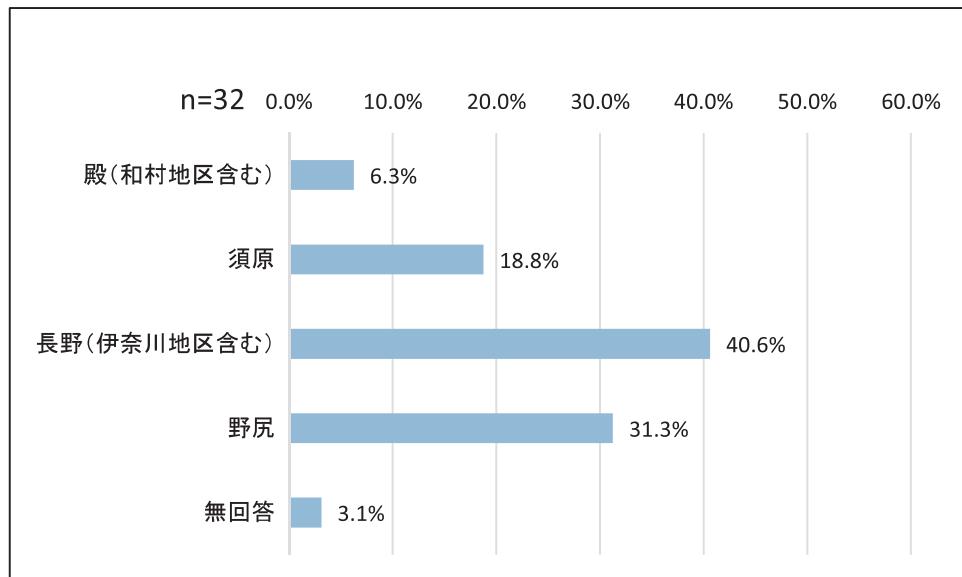


③居住地区

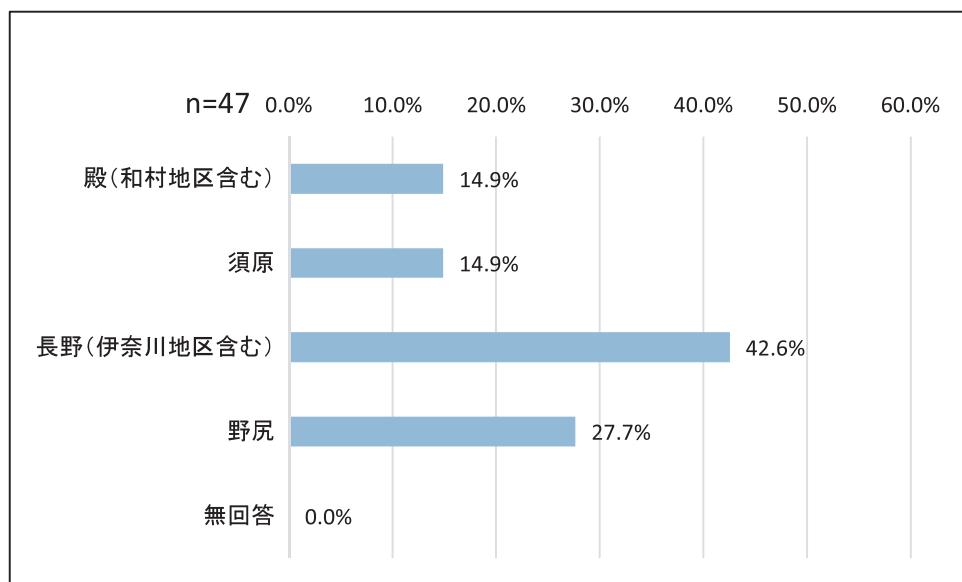
住んでいるところについては、小学生では「長野（伊奈川地区含む）」が40.6%と最も高く、次いで、「野尻」が31.3%、「須原」が18.8%、「殿（和村地区含む）」が6.3%となっています。

中学生では「長野（伊奈川地区含む）」が42.6%と最も高く、次いで、「野尻」が27.7%、「殿（和村地区含む）」と「須原」が14.9%となっています。

【小学生】



【中学生】



(7) 調査結果（住民アンケート）

①むらへの愛着度について

問2 あなたは、大桑村に対して「自分のむら」としての愛着をどの程度感じていますか。

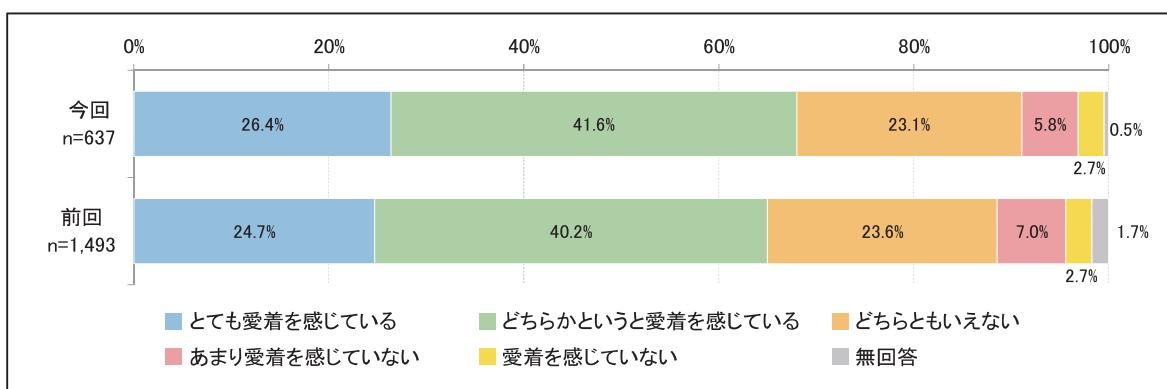


- “愛着を感じている”が68.0%。前回調査時(64.9%)よりも割合が高い。

村民の村に対する愛着度を把握するため、「とても愛着を感じている」「どちらかというと愛着を感じている」「どちらともいえない」「あまり愛着を感じていない」「愛着を感じていない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「どちらかというと愛着を感じている」と答えた人(41.6%)が最も多く、これに「とても愛着を感じている」(26.4%)をあわせた“愛着を感じている”という人が68.0%となっています。

また、前回調査(64.9%)よりも“愛着を感じている”という人の割合が高くなっています。



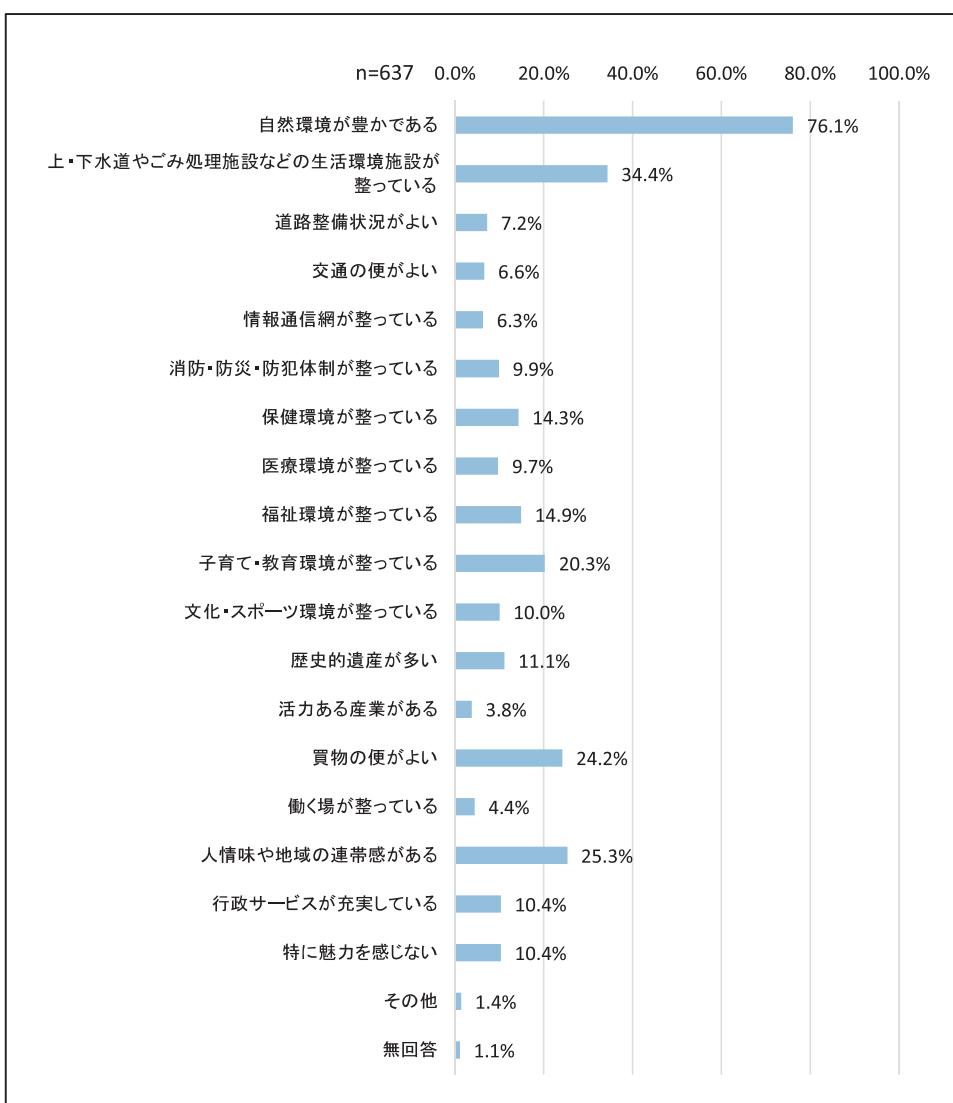
②むらの魅力について

問3 あなたは、大桑村はどのようなところが魅力だと思いますか。【複数回答】

- 「自然環境が豊かである」が第1位。次いで「上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が整っている」、「人情味や地域の連帯感がある」の順。

大桑村の魅力についてたずねたところ、「自然環境が豊かである」(76.1%) が第1位に挙げられ、次いで「上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が整っている」(34.4%)、「人情味や地域の連帯感がある」(25.3%) と続いています。

むらの魅力について(全体／複数回答)



③これからの定住意向について

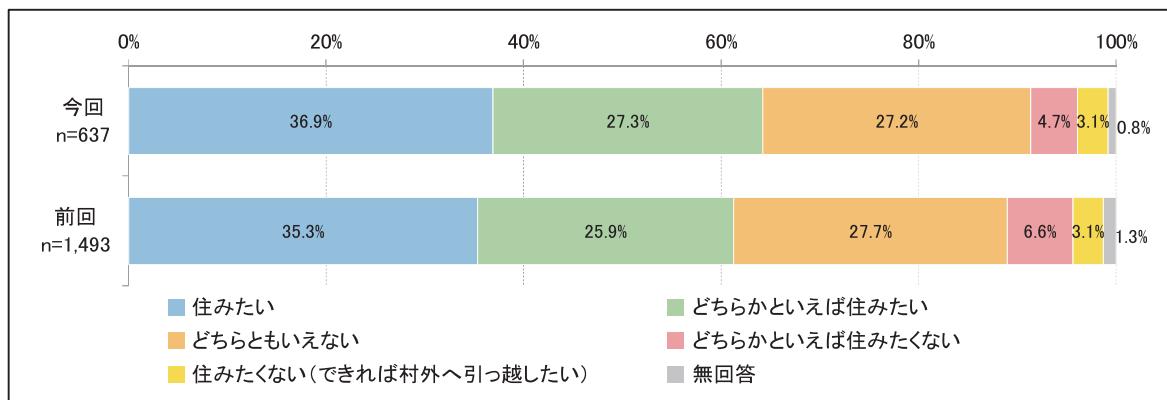
問4 あなたは、これからも大桑村に住みたいと思いますか。

● “住みたい”が64.2%。前回調査時(61.2%)よりも割合が高い。

村民のこれからの定住意向を探るため、「住みたい」「どちらかといえば住みたい」「どちらともいえない」「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「住みたい」と答えた人(36.9%)が最も多く、これに「どちらかといえば住みたい」(27.3%)をあわせた“住みたい”という人が64.2%となっています。

また、前回調査(61.2%)よりも“住みたい”という人の割合が高くなっています。



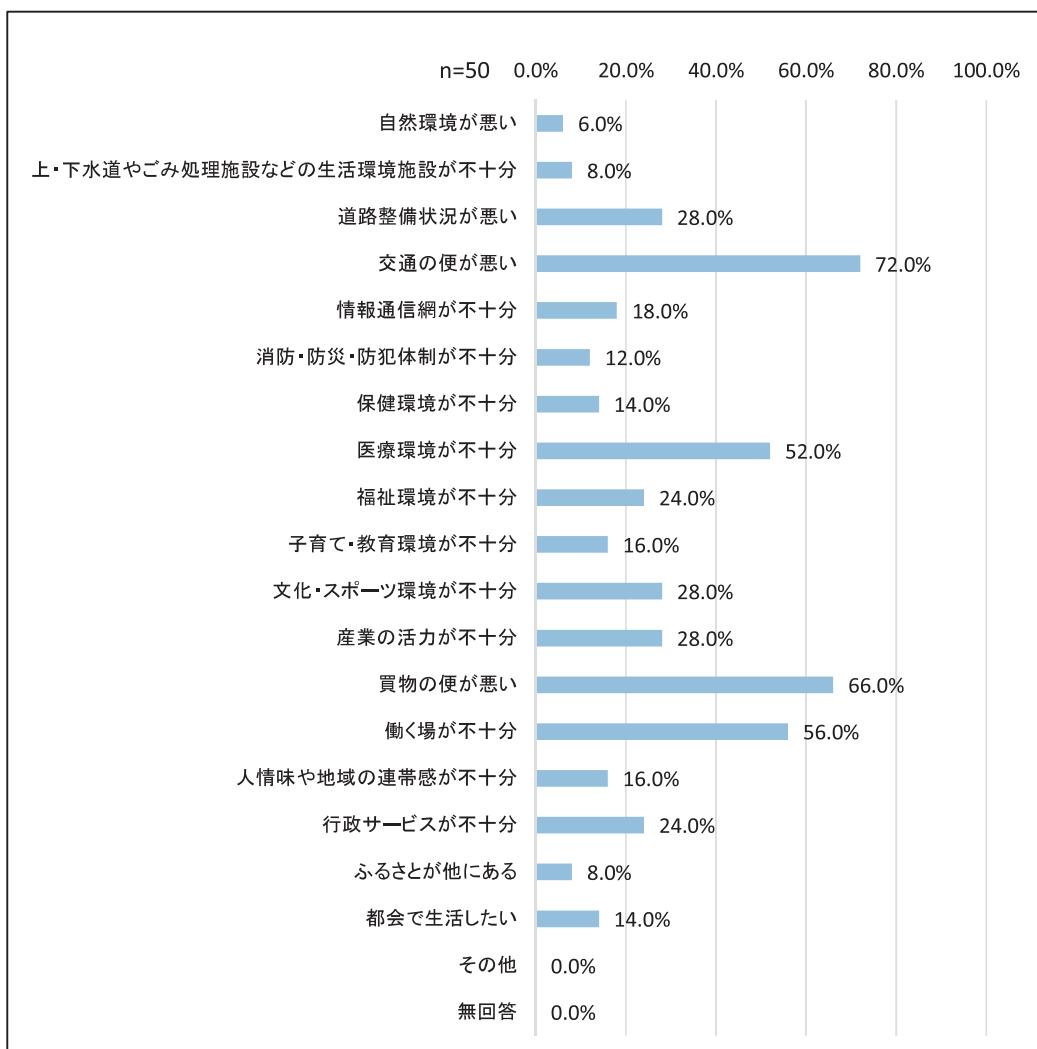
④住みたくない主な理由について

問4付問 大桑村に住みたくない主な理由はなんですか。
(問4で“住みたくない”と回答した人のみ)【複数回答】

- 「交通の便が悪い」が第1位。次いで「買物の便が悪い」、「働く場が不十分」の順。

問4で“住みたくない”と回答した50人(全体の7.8%)に、住みたくない主な理由についてたずねたところ、「交通の便が悪い」(72.0%)が第1位に挙げられ、次いで「買物の便が悪い」(66.0%)、「働く場が不十分」(56.0%)が続いています。

住みたくない主な理由について(全体／複数回答)



⑤むらの現状に関する満足度

問5 大桑村では、第5次大桑村総合計画後期基本計画(令和元年度～令和5年度)に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めています。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

(1) あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。

- 満足度が最も高い項目は「上水道の整備状況」。次いで「下水道等の整備状況」、「ごみ処理・リサイクル等の状況」の順。
- 満足度が最も低い項目は「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」。次いで「観光振興の状況」、「農業振興の状況」の順。

むらの現状について、現在どの程度満足しているかを把握するため、生活基盤分野、教育・文化分野、産業分野、保健・医療・福祉分野、協働・行財政分野の5分野43項目を設定し、項目ごとに「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値[後述参照]による数量化で評価点(満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点)を算出しました。

その結果、満足度評価が最も高い項目は「上水道の整備状況」(4.23点)となっており、次いで第2位が「下水道等の整備状況」(3.79点)、第3位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(2.87点)、以下、「保健サービス提供体制」(2.30点)、「子育て支援体制（学習の場の提供、保育体制の充実等）」(1.78点)と続いています。

一方、満足度評価の低い項目は、第1位が「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」(-2.32点)、次いで第2位が「観光振興の状況」(-1.25点)、第3位が「農業振興の状況」(-1.02点)、以下、「林業振興の状況」「住宅施策の状況」(-0.75点)と続いています。

全体的にみると、満足度はプラス評価が大部分を占めていますが、一方で産業分野のすべての項目で満足度評価がマイナスとなっています。また、満足度がプラス評価の項目が32項目、マイナス評価の項目が11項目となっています。

※加重平均値の算出方法

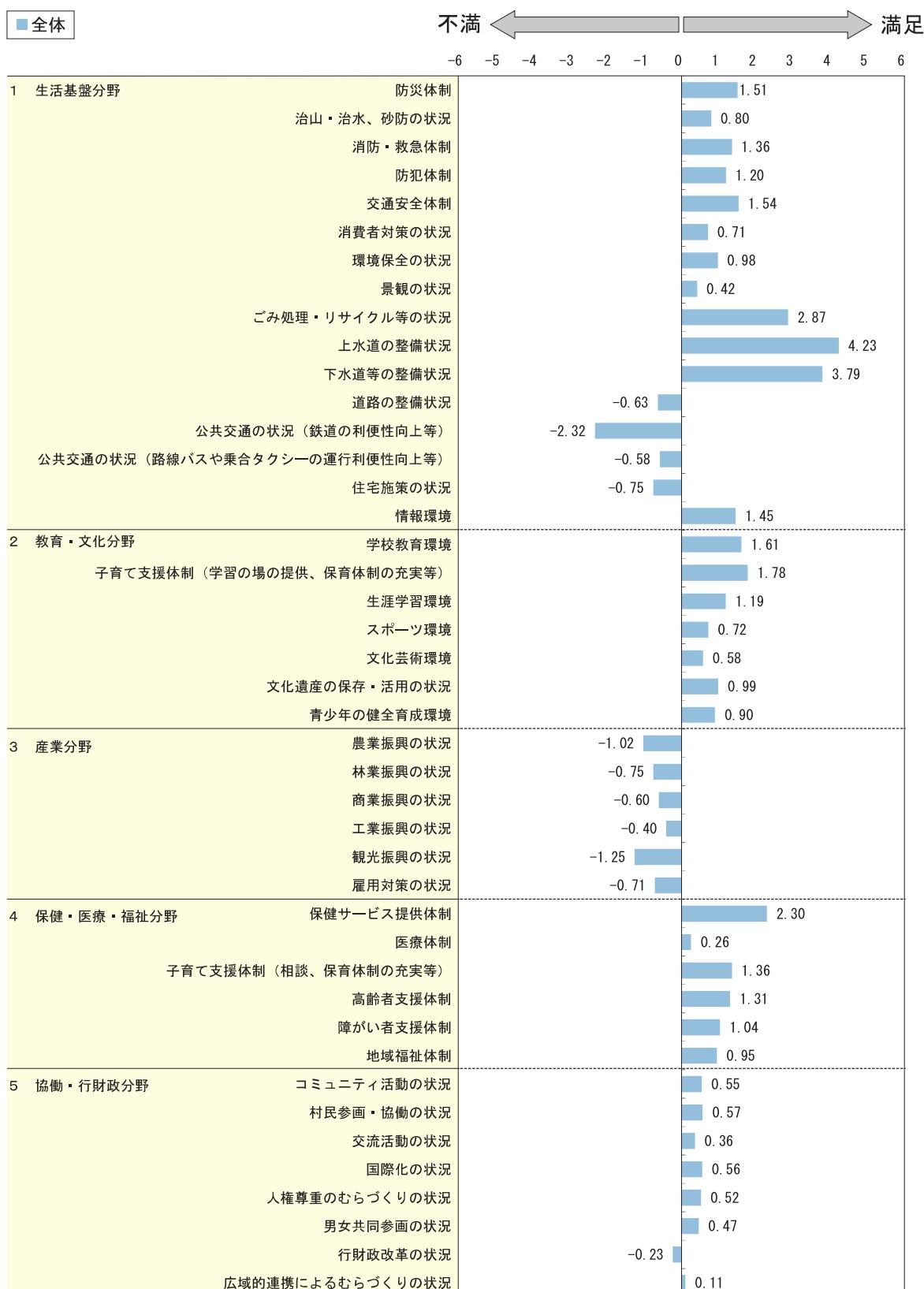
5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(満足度)を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left(\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{点} \end{array} \right)}{\left(\begin{array}{l} \text{「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」の回答者数} \end{array} \right)}$$

この算出方法により、評価点(満足度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

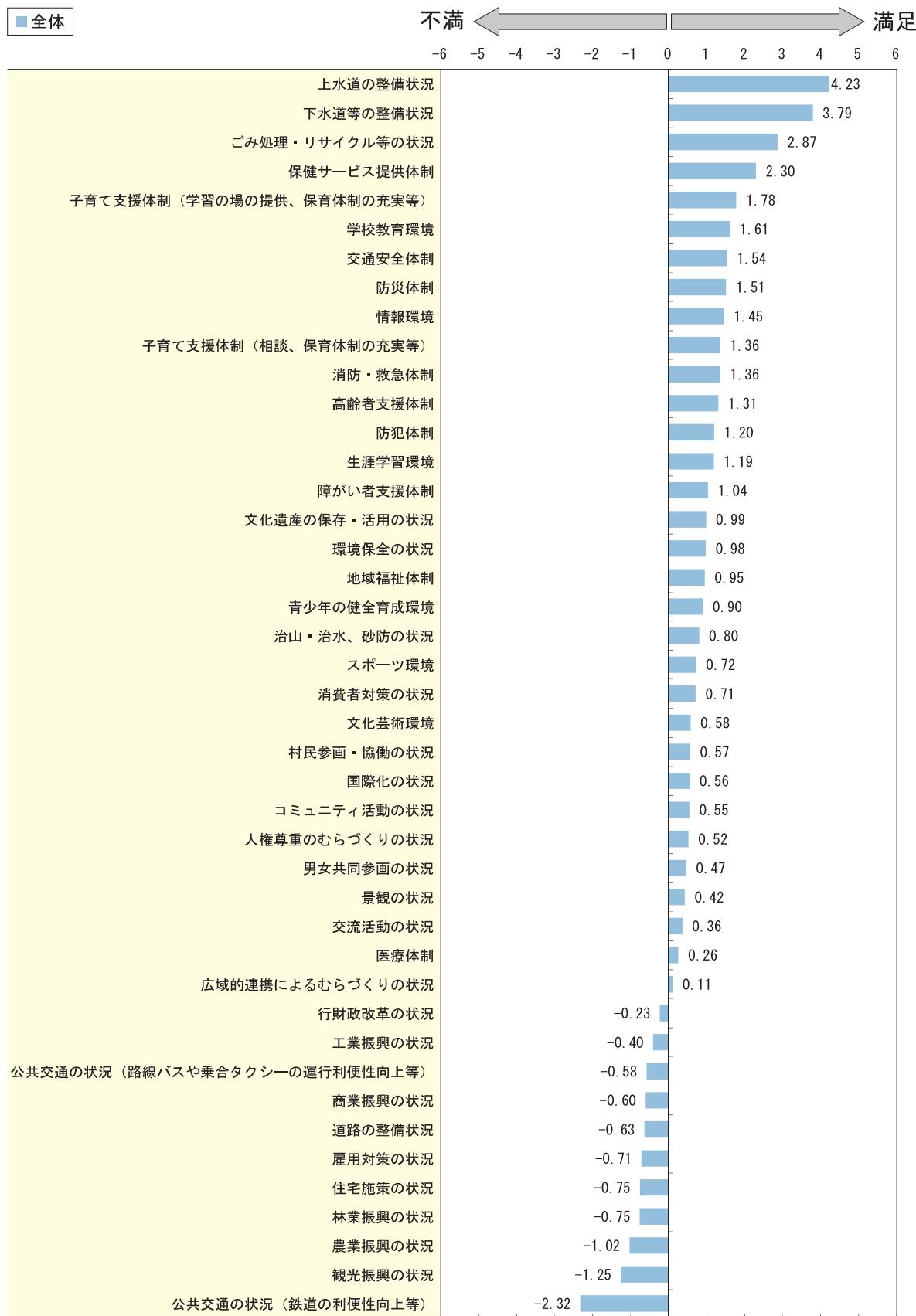
むらの現状に関する満足度（全体）

(単位：評価点)



むらの現状に関する満足度（全体・評価点順）

(単位：評価点)



⑥今後の取り組みの重要度

問5 大桑村では、第5次大桑村総合計画後期基本計画(令和元年度～令和5年度)に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めています。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

(2) あなたは、以下の項目について、今後どの程度重視していますか。



- 重要度が最も高い項目は「治山・治水、砂防の状況」。次いで「防災体制」、「医療体制」、「消防・救急体制」、「上水道の整備状況」の順。

むらの今後の取り組みについて、今後どの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ5分野43項目について、「重視している」「やや重視している」「どちらともいえない」「あまり重視していない」「重視していない」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値[後述参照]による数量化で評価点(重要度:最高点10点、中間点0点、最低点-10点)を算出しました。

その結果、重要度評価が最も高い項目は「治山・治水、砂防の状況」(5.70点)となっており、次いで第2位が「防災体制」(5.48点)、第3位が「医療体制」(5.38点)、以下、「消防・救急体制」(5.22点)、「上水道の整備状況」(4.98点)と続いています。

これら上位項目をみると、第3位の「医療体制」は保健・医療・福祉分野となっていますが、そのほかは主に生活基盤分野が上位に挙げられており、特に防災関係の項目が多くなっています。

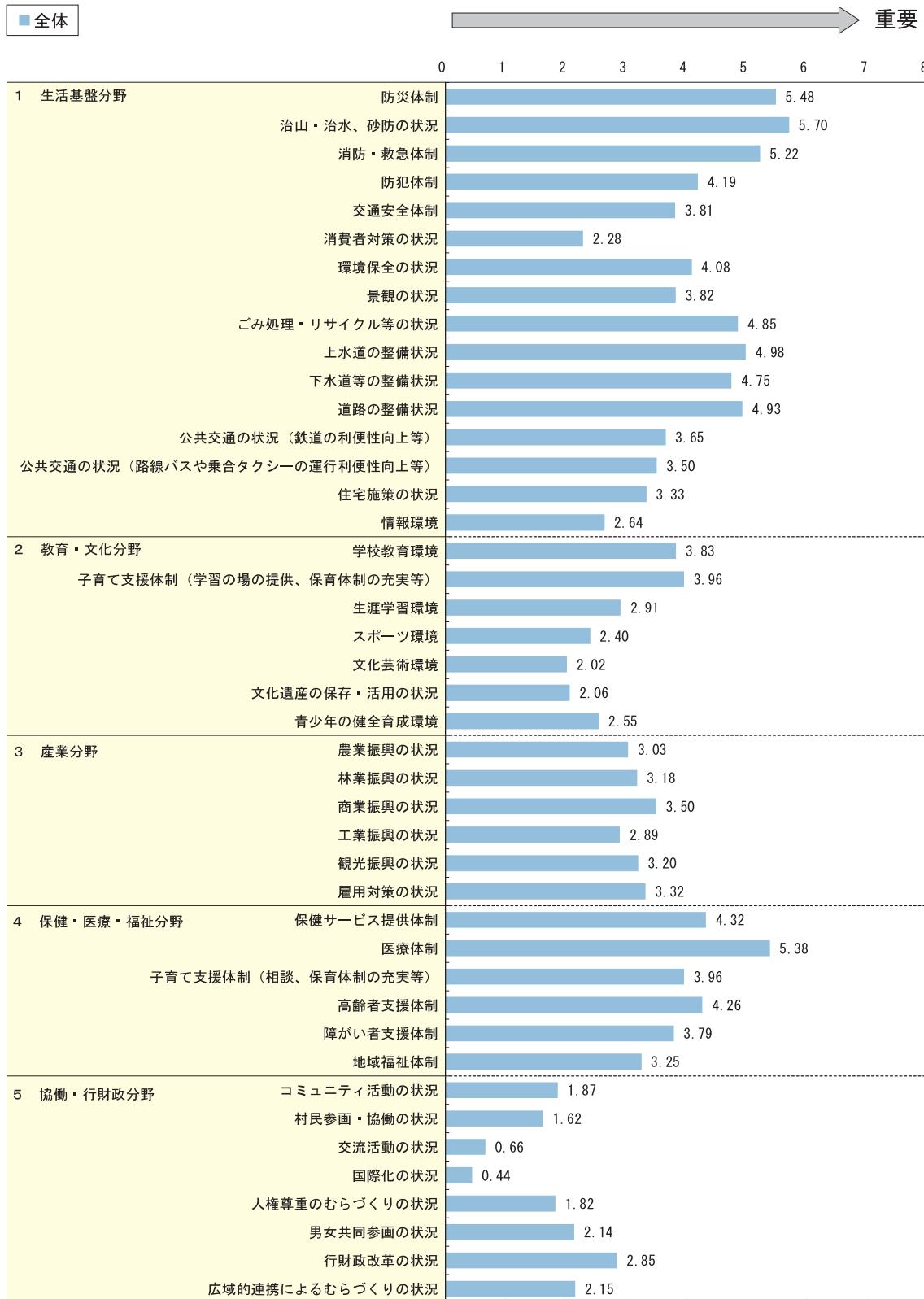
※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(重要度)を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left(\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right)}{\left(\begin{array}{l} \text{「重視している」「やや重視している」「どちらともいえない」「あまり重視していない」「重視していない」の回答者数} \end{array} \right)}$$

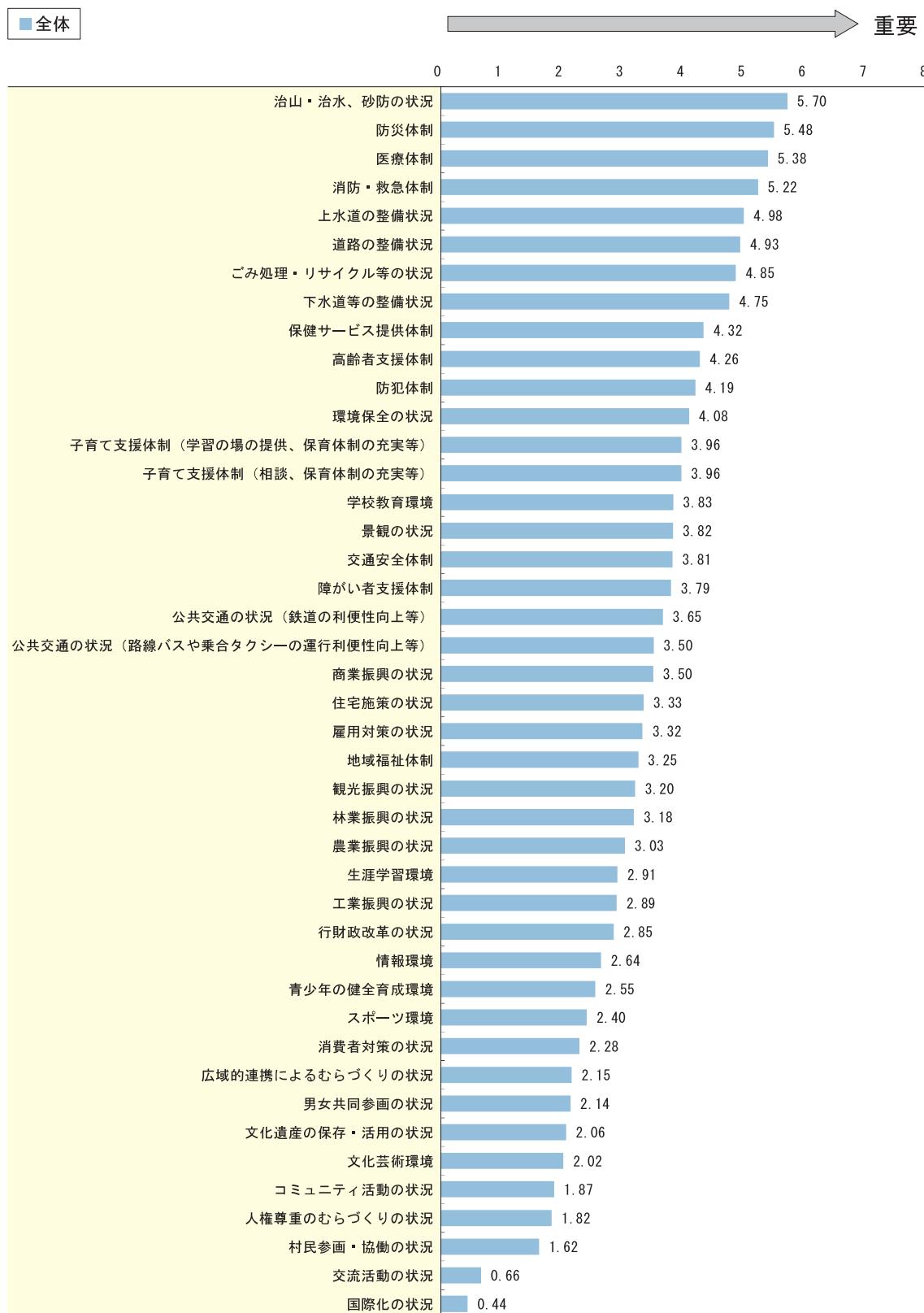
今後の取り組みの重要度（全体）

(単位：評価点)



今後の取り組みの重要度（全体・評価点順）

(単位：評価点)



⑦満足度と重要度の相関（優先度）

- 満足度と重要度の相関からみた優先度が最も高い項目は「道路の整備状況」。次いで「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」、「医療体制」、「治山・治水、砂防の状況」、「観光振興の状況」の順。

これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するため、満足度評価と重要度評価を相関させ、優先度を算出しました。

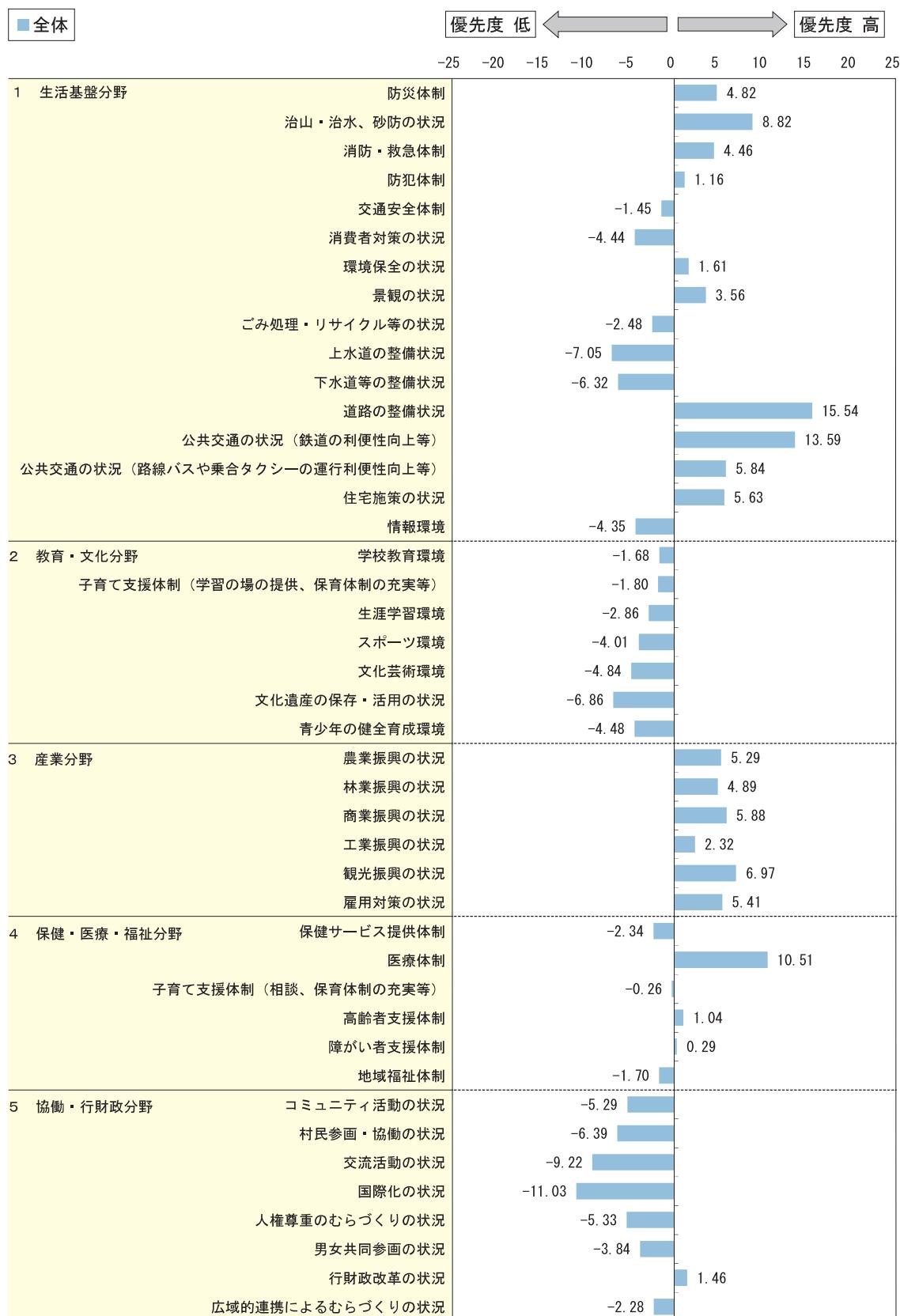
この結果をみると、優先度は、「道路の整備状況」(15.54点)が第1位となっており、次いで「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」(13.59点)、「医療体制」(10.51点)、「治山・治水、砂防の状況」(8.82点)、「観光振興の状況」(6.97点)と続いています。

※優先度の算出方法

- ① 満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。
例：「道路の整備状況」→満足度偏差値 30.0…、重要度偏差値 58.3…
- ② ①で算出した偏差値から平均（中心）からの距離を算出する。
例：「道路の整備状況」→ $21.64 = \sqrt{(30.0-50)^2 + (58.3-50)^2}$
- ③ 平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。
例：「道路の整備状況」→22.57 度
- ④ ③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる）。
例：「道路の整備状況」→ $0.7492 = (90-22.57) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均（中心）からの距離と③で算出された修正指数から優先度を算出する。
例：「道路の整備状況」→ $16.22 = 21.64 \times 0.7492$ …

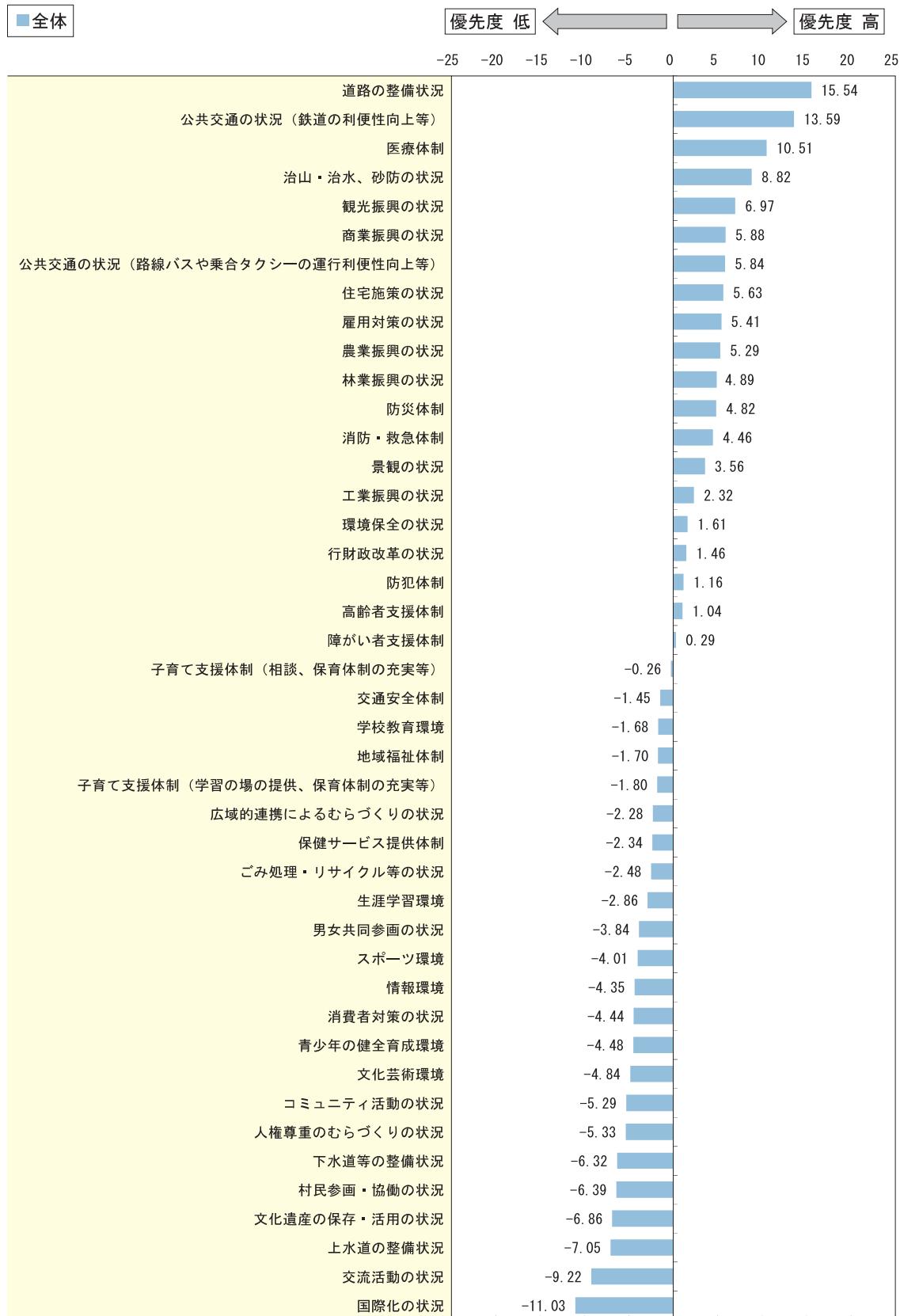
満足度と重要度の相関（全体／優先度）

(単位：評価点)



満足度と重要度の相関（全体／優先度・評価点順）

(単位：評価点)



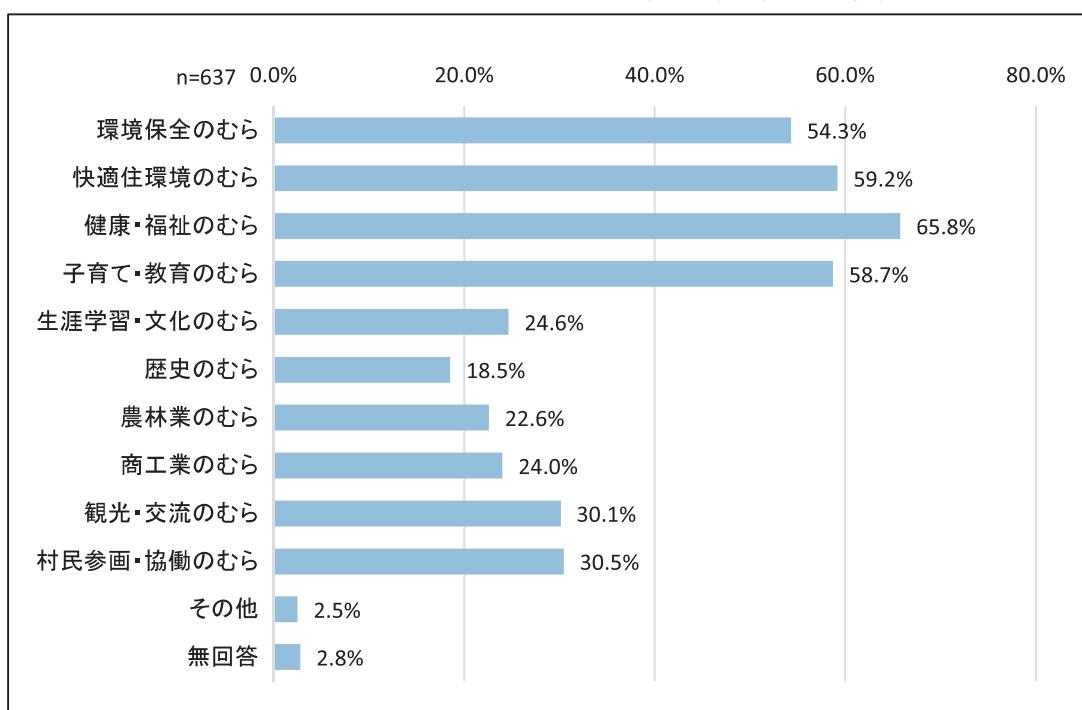
⑧今後のむらづくりの特色について

問6 あなたは、今後のむらづくりにおいて、大桑村をどのような特色的あるむらにすべきだと考えますか。【複数回答】

- 「健康・福祉のむら」が第1位。次いで「快適住環境のむら」、「子育て・教育のむら」、「環境保全のむら」の順。

今後のむらづくりの特色については、「健康・福祉のむら」(65.8%)が第1位に挙げられ、次いで「快適住環境のむら」(59.2%)、「子育て・教育のむら」(58.7%)、「環境保全のむら」(54.3%)が続いています。

今後のむらづくりの特色について(全体／複数回答)



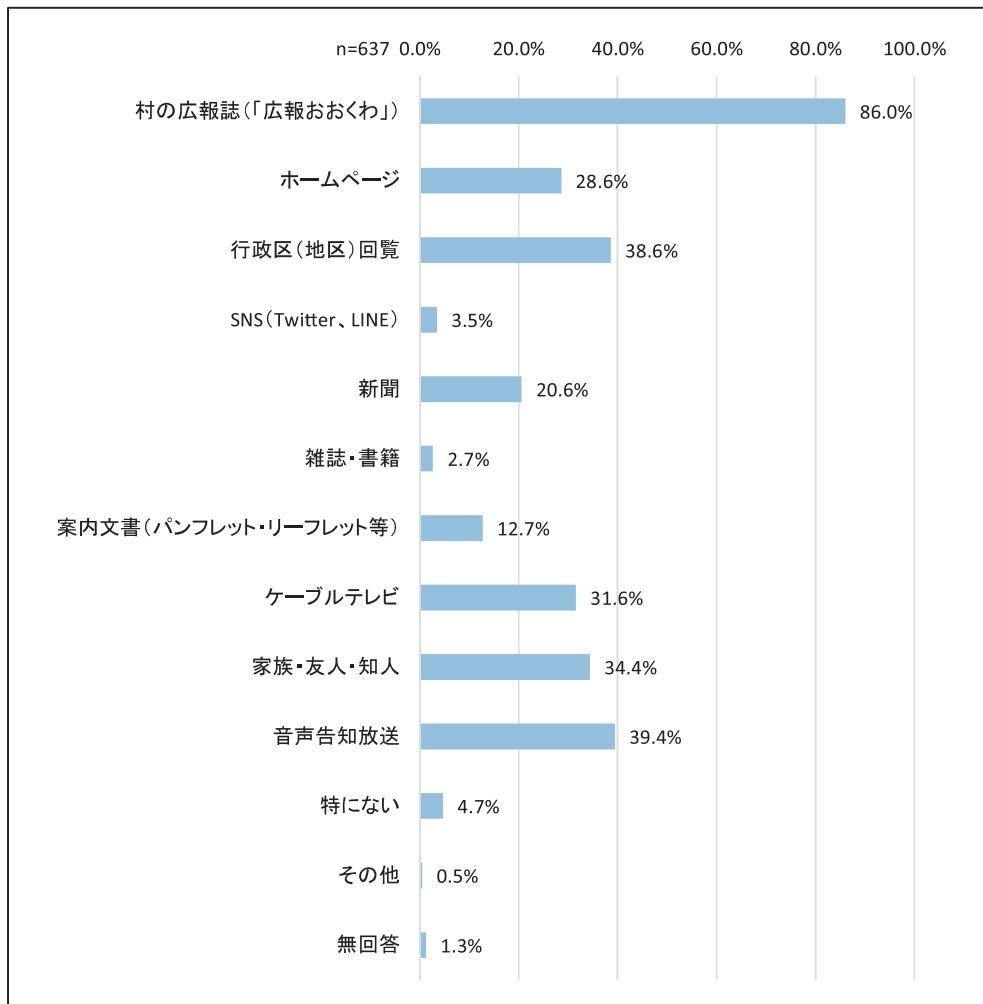
⑨大桑村の行政情報の入手方法について

問13 あなたは、大桑村の行政情報をどのように入手していますか。【複数回答】

- 「村の広報誌（「広報おおくわ」）」が第1位。次いで「音声告知放送」、「行政区（地区）回覧」の順。

村の行政情報の入手方法についてたずねたところ、「村の広報誌（「広報おおくわ」）」(86.0%)が第1位に挙げられ、次いで「音声告知放送」(39.4%)、「行政区（地区）回覧」(38.6%)と続いています。

大桑村の行政情報の入手方法について（全体／複数回答）



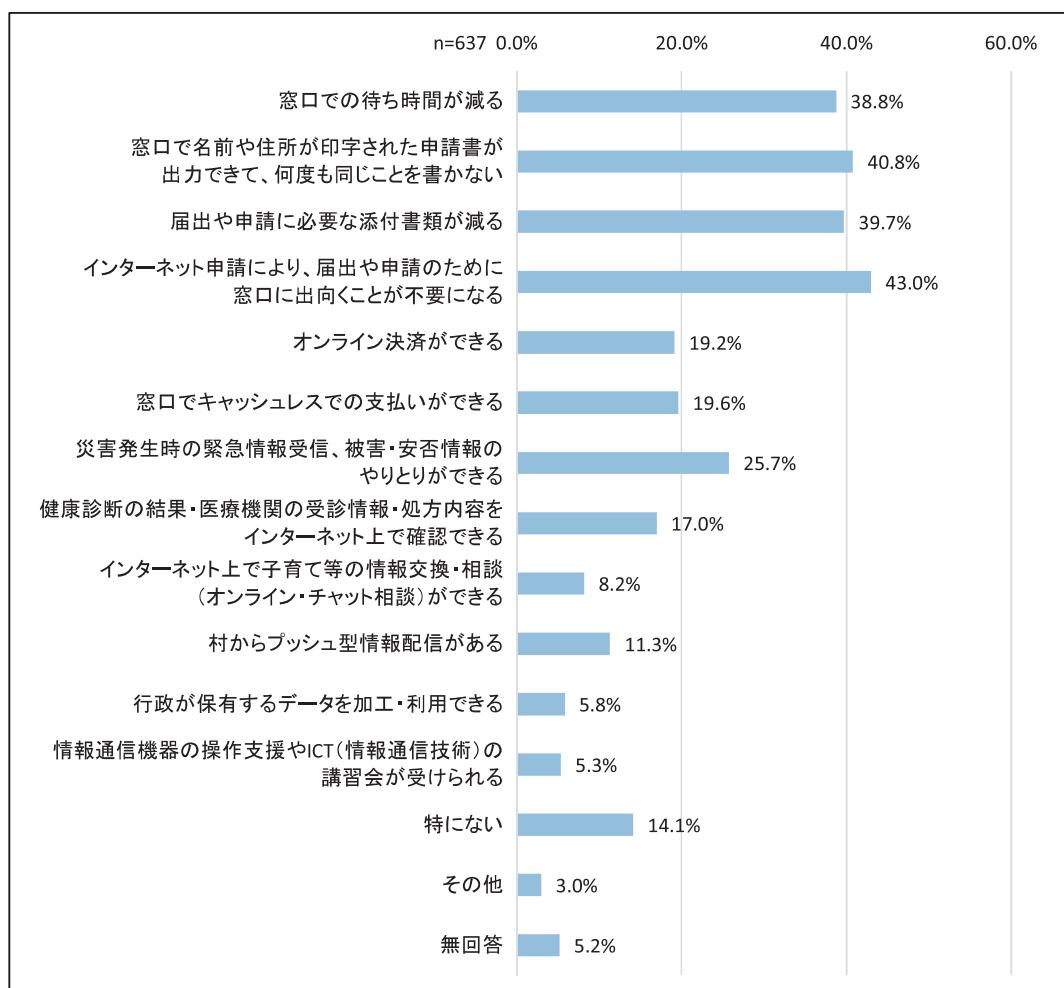
⑩行政手続きや行政サービスのデジタル化による期待について

問14 あなたは、行政手続きや行政サービスがデジタル化されることで、どのように良くなることを期待しますか。【複数回答】

- 「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」が第1位。次いで「窓口で名前や住所が印字された申請書が出力できて、何度も同じことを書かない」、「届出や申請に必要な添付書類が減る」の順。

行政手続きや行政サービスのデジタル化による期待についてたずねたところ、「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」(43.0%)が第1位に挙げられ、次いで「窓口で名前や住所が印字された申請書が出力できて、何度も同じことを書かない」(40.8%)、「届出や申請に必要な添付書類が減る」(39.7%)と続いています。

行政手続きや行政サービスのデジタル化による期待について(全体／複数回答)



⑪マイナンバーカードの取得について

問15 あなたは、マイナンバーカードを持っていますか。または交付申請しましたか。

- 「持っているまたは交付申請中」が第1位。次いで「持っていないが、取得する予定である」、「持っておらず、取得する予定もない」の順。

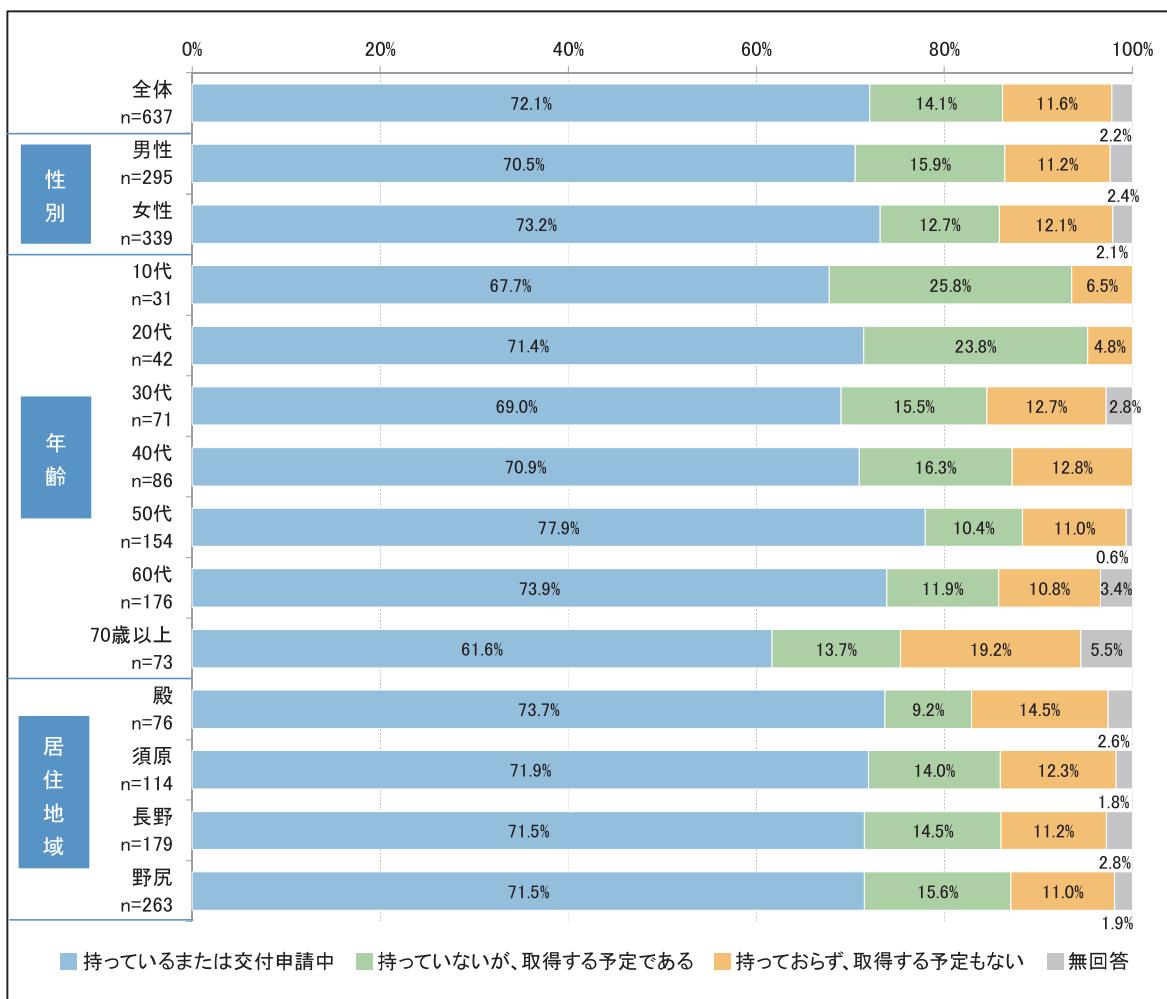
マイナンバーカードの取得については、「持っているまたは交付申請中」と答えた人が72.1%、「持っていないが、取得する予定である」と答えた人が14.1%、「持っておらず、取得する予定もない」と答えた人が11.6%となっています。

属性別で「持っているまたは交付申請中」の割合をみると、性別では、女性が73.2%と男性(70.5%)をわずかに上回っています。

年齢別では、50代(77.9%)が最も高く、70歳以上(61.6%)が最も低くなっています。

居住地域別では、殿(和村地区含む)が73.7%、須原が71.9%、長野(伊奈川地区含む)・野尻が71.5%と大きな差はみられませんでした。

マイナンバーカードの取得について(全体・性別・年齢・居住地域)



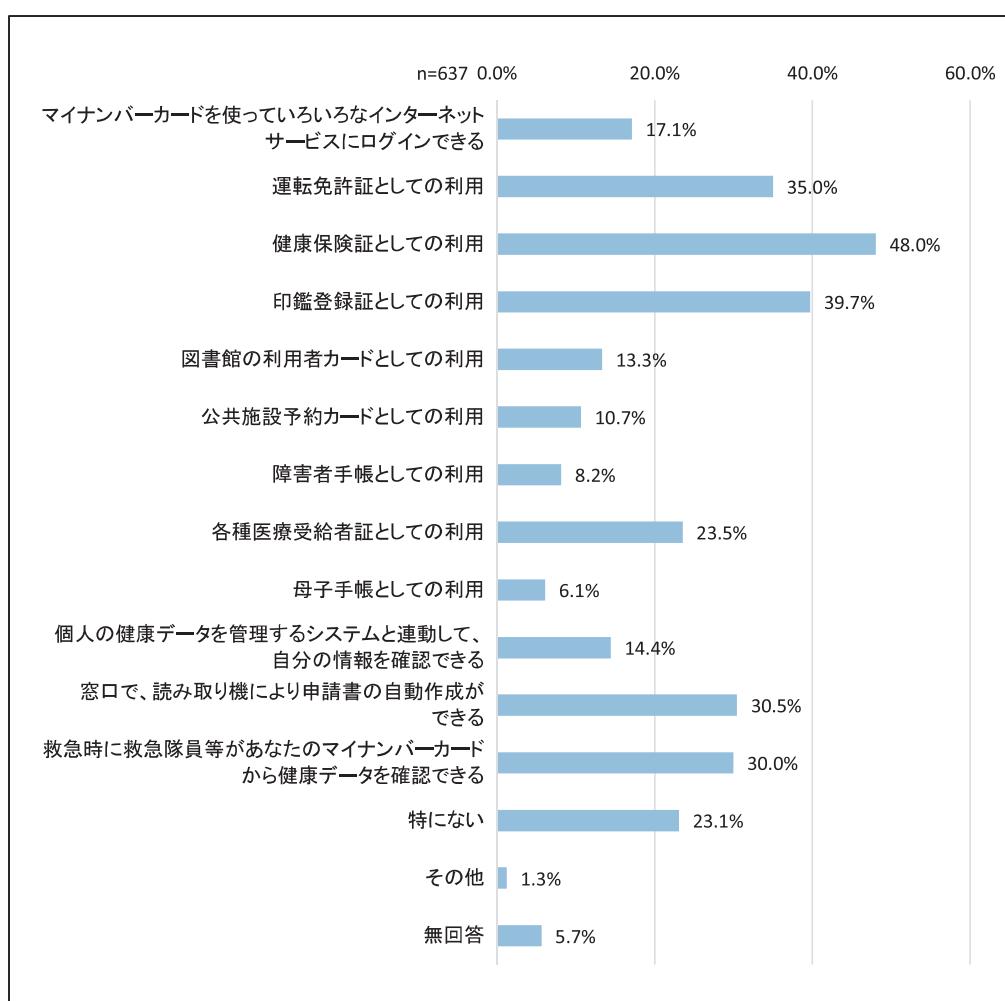
⑫マイナンバーカード利用への期待について

問16 あなたは、マイナンバーカードで何ができるごとに期待しますか。【複数回答】

- 「健康保険証としての利用」が第1位。次いで「印鑑登録証としての利用」、「運転免許証としての利用」の順。

マイナンバーカード利用への期待についてたずねたところ、「健康保険証としての利用」(48.0%)が第1位に挙げられ、次いで「印鑑登録証としての利用」(39.7%)、「運転免許証としての利用」(35.0%)と続いています。

マイナンバーカードの利用への期待について（全体／複数回答）



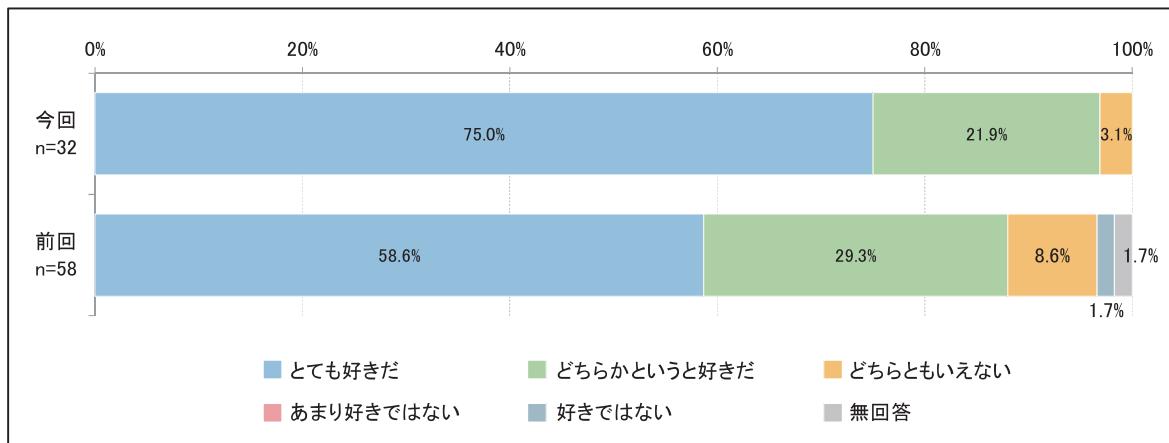
(8) 調査結果（小・中学生アンケート）

①大桑村のことが好きか

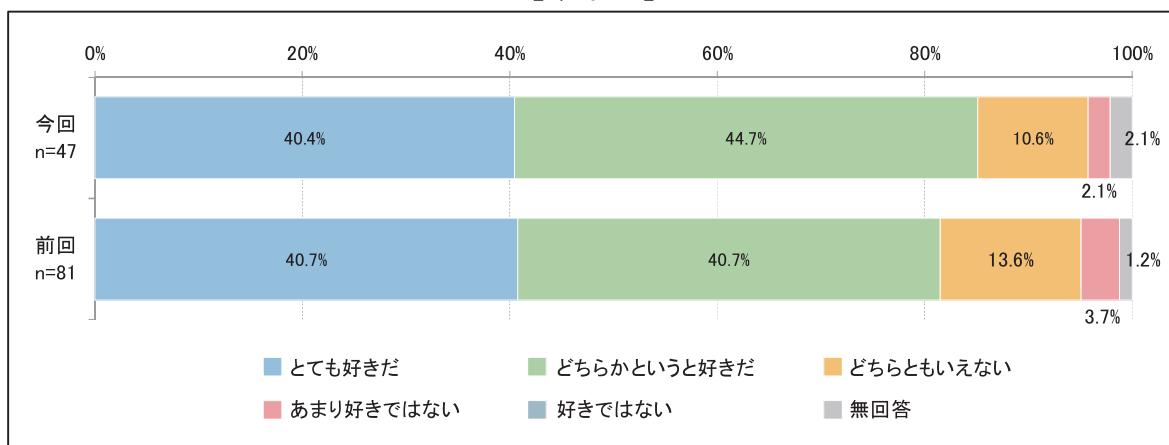
問2 あなたは、大桑村のことが好きですか。

大桑村のことが好きかについては、小学生では「とても好きだ」が 75.0% と最も高くなっています。中学生では「どちらかというと好きだ」が 44.7% と最も高くなっています。また、「とても好きだ」と「どちらかというと好きだ」をあわせた『大桑村のことが好きだ』でみると、小学生が 96.9%（前回 87.9%）、中学生が 85.1%（前回 81.4%）となっており、小学生のほうが 11.8% 高くなっています。

【小学生】



【中学生】

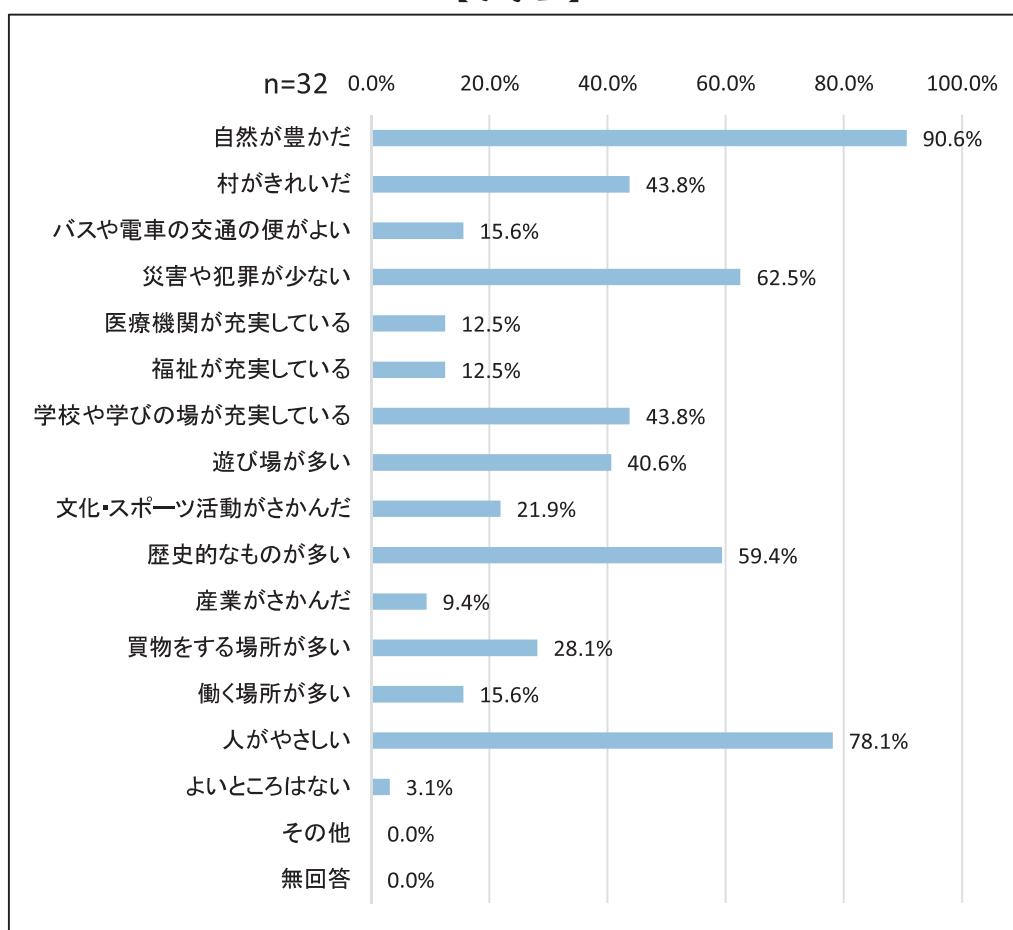


②大桑村のよいところ

問3 あなたは、大桑村のよいところはどのようなところだと思いますか。（複数回答）

大桑村のよいところについては、小学生では「自然が豊かだ」が90.6%と最も高く、次いで、「人がやさしい」が78.1%、「災害や犯罪が少ない」が62.5%と続いています。

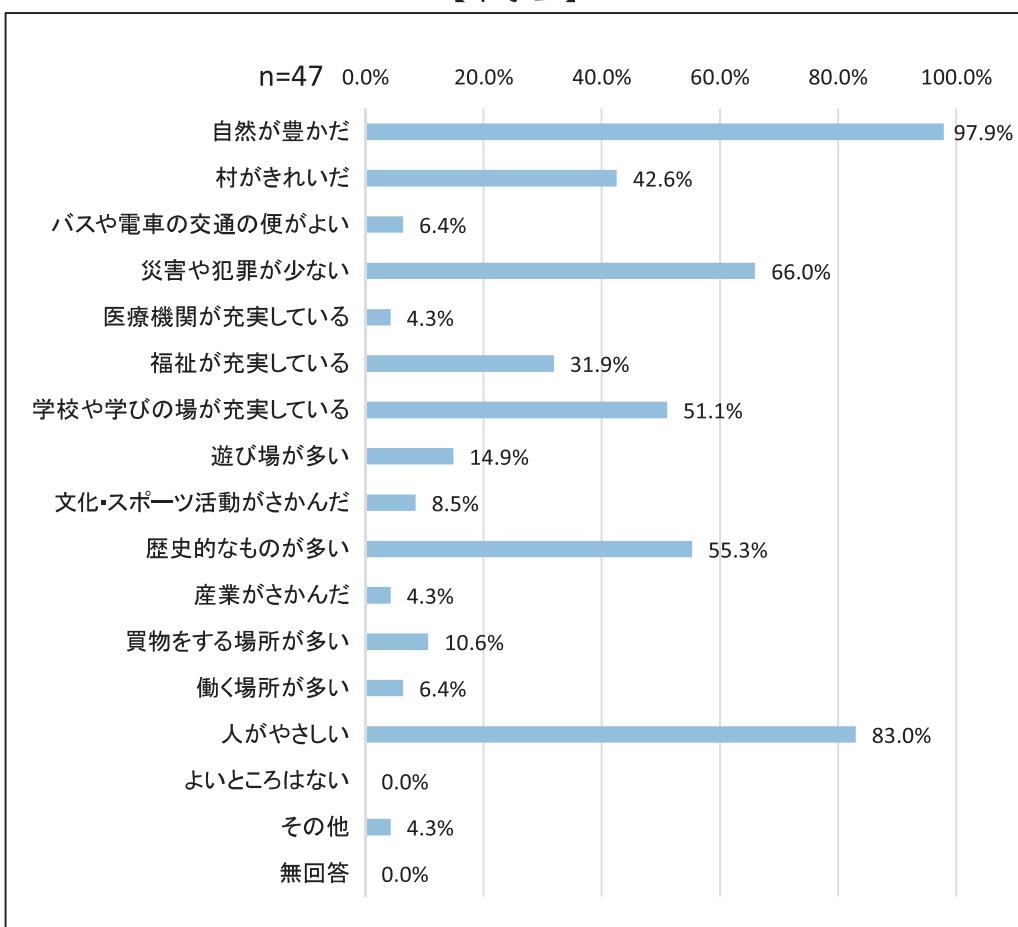
【小学生】



中学生では「自然が豊かだ」が97.9%と最も高く、次いで、「人がやさしい」が83.0%、「災害や犯罪が少ない」が66.0%と続いています。

小学生、中学生ともに「自然が豊かだ」「人がやさしい」「災害や犯罪が少ない」というところが村の魅力として評価されています。

【中学生】



③大桑村に住み続けたいか

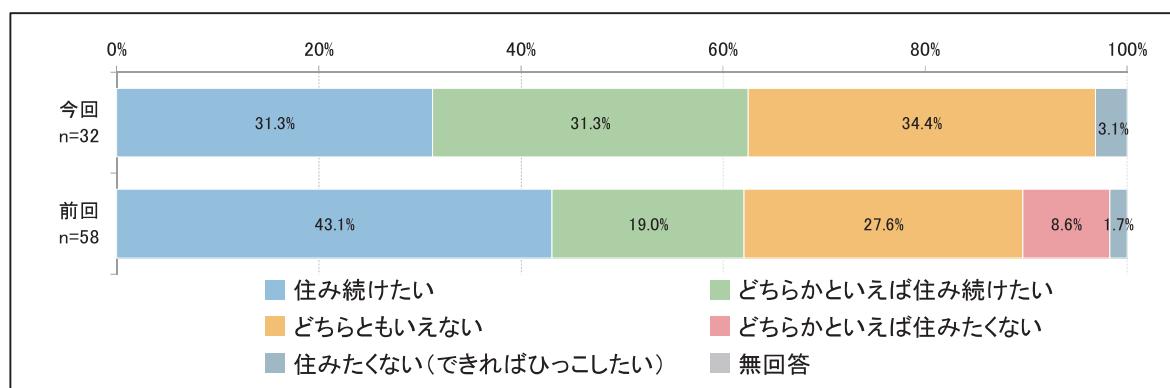
問4 あなたは、将来、大桑村に住み続けたいと思いますか。

大桑村に住み続けたいかについては、小学生では「どちらともいえない」が34.4%と最も高くなっています。

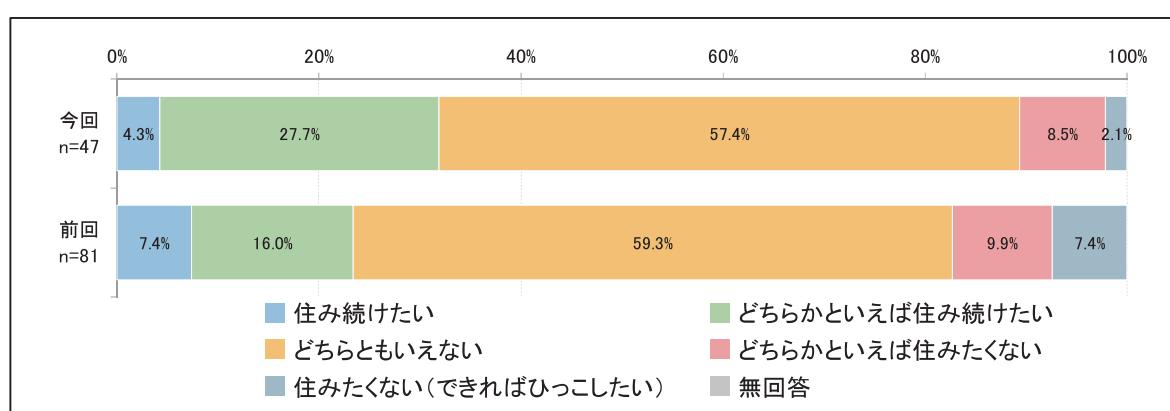
中学生では「どちらともいえない」が57.4%と最も高くなっています。

また、「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」をあわせた『大桑村に住み続けたい』でみると、小学生が62.6%（前回62.1%）、中学生が32.0%（前回23.4%）となっており、小学生のほうが30.6%高くなっています。

【小学生】



【中学生】



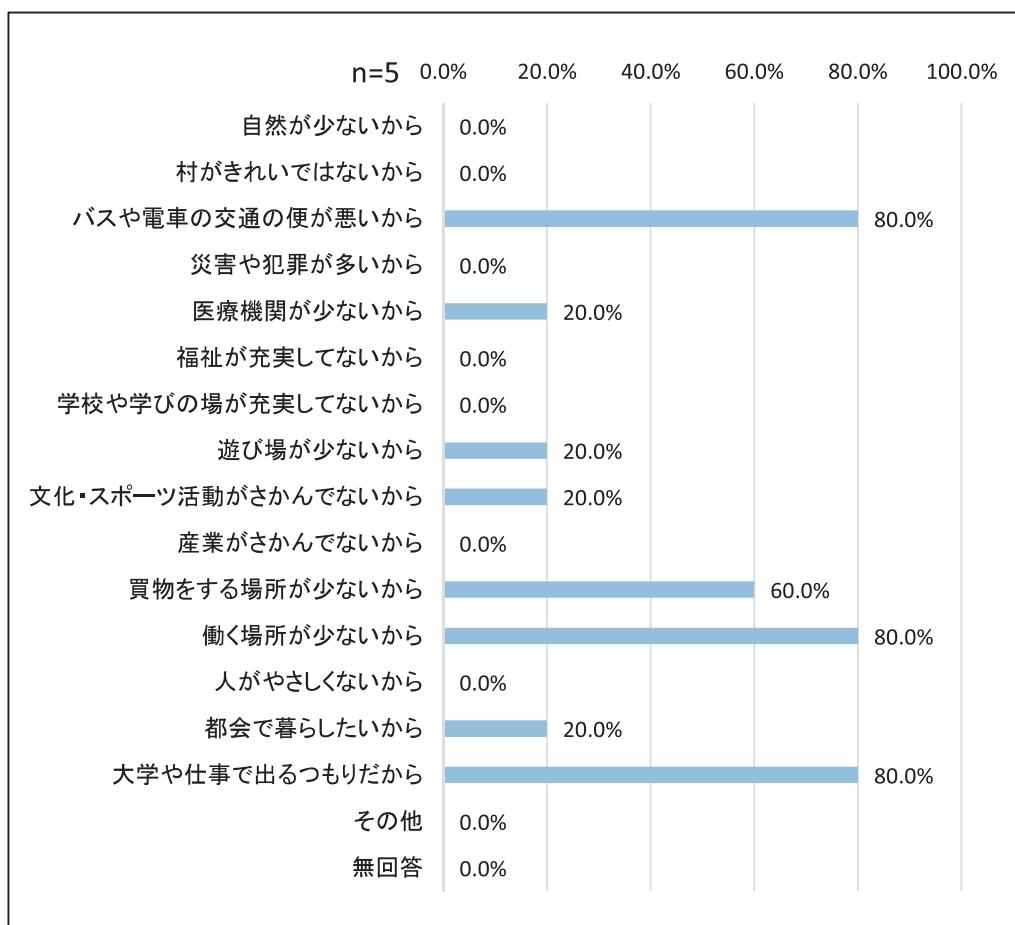
④住みたくない理由

問4付問 住みたくない理由はなんですか。
 (問4で“住みたくない”と回答した人のみ) (複数回答)

大桑村に住みたくない理由については、小学生では「その他」(都会で消防士になりたいから)が1件でした。

中学生では「バスや電車の交通の便が悪いから」「働く場所が少ないから」「大学や仕事で出るつもりだから」が80.0%と最も高く、次いで、「買物をする場所が少ないから」が60.0%と続いています。

【中学生】

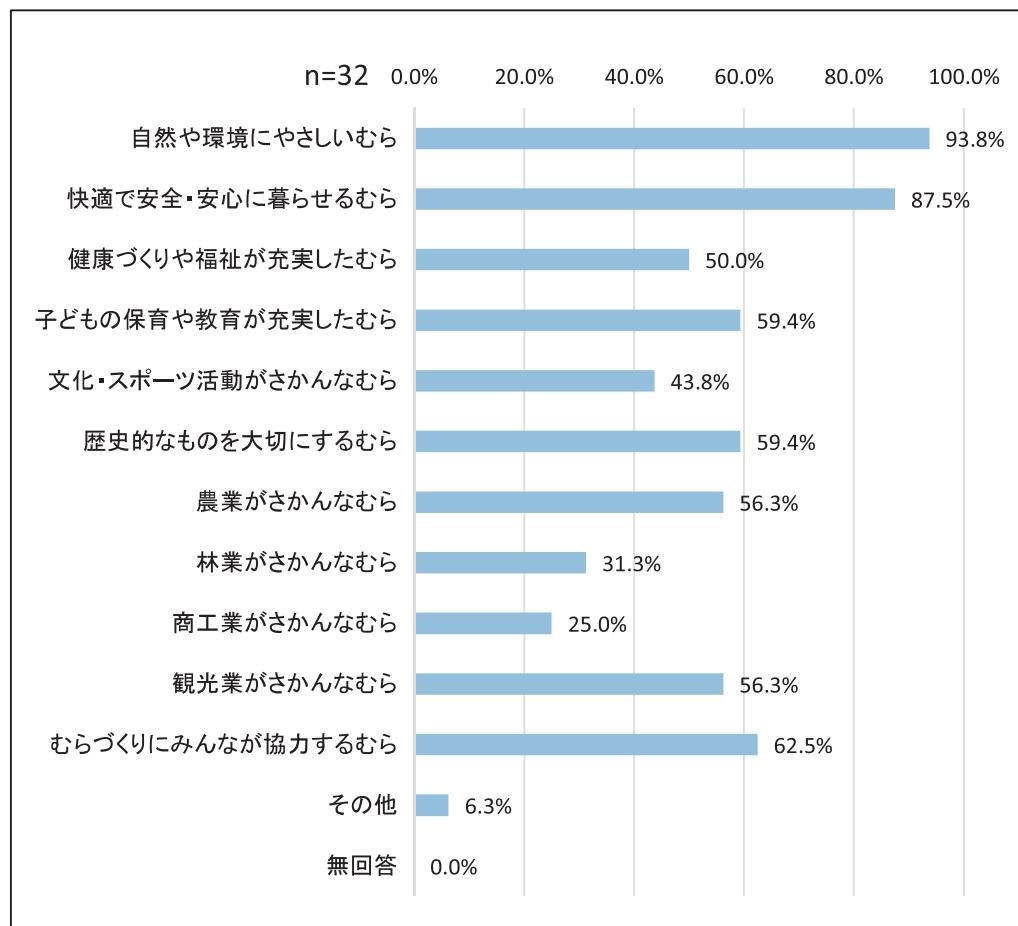


⑤今後のむらづくりの特色について

問5 あなたは、これからの大桑村はどのようなむらになってほしいと思いますか。【複数回答】

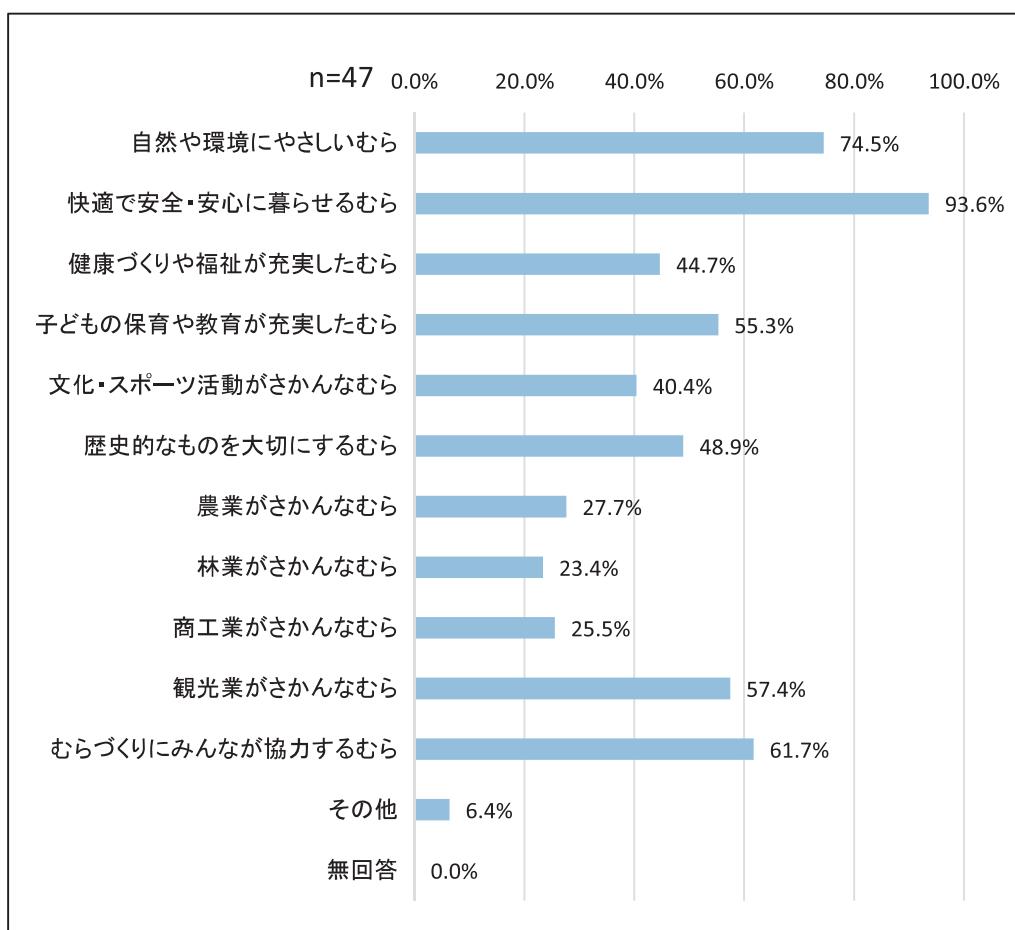
今後、大桑村はどのようなむらになってほしいかについては、小学生では「自然や環境にやさしいむら」が93.8%と最も高く、次いで、「快適で安全・安心に暮らせるむら」が87.5%、「むらづくりにみんなが協力するむら」が62.5%、「子どもの保育や教育が充実したむら」と「歴史的なものを大切にするむら」が59.4%と続いています。

【小学生】



中学生では「快適で安全・安心に暮らせるむら」が93.6%と最も高く、次いで、「自然や環境にやさしいむら」が74.5%、「むらづくりにみんなが協力するむら」が61.7%、「観光業がさかんなむら」が57.4%、「子どもの保育や教育が充実したむら」が55.3%と続いています。

【中学生】



4. 時代の潮流

本村を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化し、様々な分野で新たな対応が求められています。今後のむらづくりにおいて踏まえるべき代表的な時代潮流は、以下のとおりです。

(1) 人口の減少と少子高齢化

わが国全体で少子高齢化が進んでおり、令和2（2020）年国勢調査では高齢化率が28.6%と約3人にひとりが高齢者となっています。また、令和4（2022）年の人口動態統計では、出生数が過去最少だった令和3（2021）年を下回る77万747人となり、初めて80万人台を割り込み、深刻な少子化があらためて浮き彫りになりました。

今後、少子高齢社会の進行がさまざまな影響を及ぼすと考えられ、労働力不足による経済成長の鈍化、年金や医療費などの社会保障負担の増加、地域社会への公共サービスの提供などの課題に対処していくことが求められます。

(2) 新型コロナウイルス感染症等への対応

令和2（2020）年から世界的に流行となった新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、国や地域によってはロックダウン※による移動制限などの措置が取られるなど、その影響は人々の生命や生活だけでなく、経済、教育、社会、行動・意識など多方面に及んでいます。

経済については、失業率の上昇、企業の倒産、経済成長の鈍化などが懸念されています。また、教育については、学校の閉鎖、オンライン教育への移行などが教育に影響を与え、学習格差を拡大させており、子どもたちの教育機会を守るために対策が求められています。さらには、災害が発生した場合の複合災害として、感染症が発生した場合の感染者の適切な治療や医療ニーズへの対策が必要となってくるでしょう。

(3) デジタル化の推進

令和3（2021）年5月に、デジタル社会の形成と経済の持続的な発展、国民の幸福な生活を促進するためのデジタル改革関連法が成立しました。同じく令和3（2021）年9月には、デジタル社会の構築を促進する組織としてデジタル庁が設立されました。

このデジタル庁は、未来志向のDX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に推進し、官民のデジタルインフラを5年以内に整備することを目指しています。

これにより、地域社会全体でDXが進展し、新たな産業やサービスが創出、生活の利便性や安全性が向上、効率的な行政サービスが提供されることが期待されています。

※ロックダウン：一定期間の不要不急の外出自粛や移動の制限のこと。

DXとは、Digital Transformation の略のことで、IT 技術が社会に浸透することで、人々の生活がより良いものへ変革するという概念のことです。

自治体におけるDXの活用は、行政サービスの効率化、行政への住民参加の促進などに効果的です。

電子行政

DXを活用して、行政手続きや申請書等の提出をオンラインで行えるようになり、住民は時間と労力を節約し、効率的に行政サービスを利用できます。

オープンデータ

国や自治体がデータを公開することで、住民や企業がデータを活用して新たなサービスやビジネスを生み出すことができ、イノベーションを促進します。

デジタル教育

教育分野でもDXを活用し、学校でのタブレットを活用した授業や図書館でのデジタル図書の提供、オンライン教育などが行われています。

セキュリティの強化

システムとデータのセキュリティを強化し、住民の個人情報等を保護します。

(4) カーボンニュートラル※の推進

地球温暖化は、その影響の大きさと深刻さから、人類の生存に関わる重要な環境問題となっています。世界中で平均気温の上昇、雪氷の融解、海面水位の上昇などが観測されており、これに起因する暴風、台風、洪水などの災害が増加しています。また、気温上昇が農作物や生態系にも影響を及ぼし、食糧供給や生態系の安定に悪影響を及ぼすことが観測されています。

わが国でも平均気温の上昇が確認され、気象関連の問題が顕在化しています。このため、地球温暖化の対策は喫緊の課題とされており、国際的な取り組みや地域社会の協力が必要とされています。

これらの状況から、わが国では令和3（2021）年5月に「改正地球温暖化対策推進法」が成立し、令和32（2050）年の温暖化ガス排出量を実質ゼロにする目標などが明記されました。また、令和3（2021）年10月に改訂された国の地球温暖化対策計画では、温室効果ガス排出量の令和12（2030）年度削減目標が26.0%減から46.0%減となるなど、地球温暖化防止をめぐる状況は

※カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。

変化しており、その対応が求められています。

(5) 安全・安心への意識の高まり

未曾有の被害をもたらした平成 23（2011）年に発生した東日本大震災は、広域かつ甚大な被害をもたらし、その影響は被災地域のみならず多方面に及んだことから、わが国の防災対策に大きな転換を迫る契機となりました。近年では、平成 28（2016）年の熊本地震や令和 6（2024）年の能登半島地震などの震災や平成 30 年 7 月豪雨、郡内においては平成 26（2014）年の南木曽町土石流災害や御嶽山の噴火、村内でも平成 30（2018）年に豪雨災害が起こるなど、防災・減災体制への意識が高まっています。

また、自然災害だけではなく、インターネットを通じてグローバルに拡大かつ巧妙化する詐欺等の犯罪やサイバー攻撃、テロなど、多岐にわたる危機が顕在化しており、これらに対応していくことが必要になっています。

(6) 地域共生社会の形成

地域共生社会の概念は、持続可能な未来の構築や社会的な結束の強化に向けたアプローチとして注目されており、多くの地域で実践されています。

近年では、老老介護をはじめ、介護と育児の両立等、いわゆるダブルケアを必要とする方の増加、さらには子どもが家事や主に家族内で障がいを持つ家族や高齢者の介護の世話をする、ヤングケアラーの問題など、地域の抱える問題や悩みは複雑化・多様化している状況にあります。

ひとりひとりの住民や世帯が抱える問題にきめ細かに対応できる地域包括ケアの支援体制を構築・強化し、子どもから高齢者まで住みなれた地域で暮らすことのできる地域共生社会の実現が求められます。

5. SDGs（持続可能な開発目標）との関連

SDGs（持続可能な開発目標）とは、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された、「持続可能な開発のための2030年アジェンダ（行動計画）」に基づき、令和12（2030）年を期限として設定された、17の目標で構成される国際目標です。

SDGsの考え方は、「経済・社会・環境」の3つの側面のバランスが取れた持続可能な社会をつくることにより、総合的な取り組みを推進することが求められます。

国は、平成28（2016）年12月、「SDGs実施指針」を決定し、持続可能で強靭かつ誰一人取り残さない、「経済・社会・環境」の統合的向上が実現された未来を目指しています。

私たちの日々の生活は、国境や地域を超えて密接に関連しており、SDGsの取り組みを進めることは、より良い世界や本村の未来へ向けたむらづくりにつながります。

本計画では、SDGsの視点を取り入れ、計画の各目標とSDGsの17目標を関連付け、国や県をはじめ、多様な関係者と連携しながら、総合的な取り組みを積極的に進めることにより、持続可能なむらづくりを進めていく必要があります。

【SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標】



【17の目標の詳細】

【貧困】	【飢餓】	【保健】	【教育】	【ジェンダー】
1 貧困をなくそう  あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。	2 飢餓をゼロに  飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	3 すべての人に健康と福祉を  あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	4 質の高い教育をみんなに  すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	5 ジェンダー平等を実現しよう  ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
【水・衛生】	【エネルギー】	【経済成長と雇用】	【インフラ、産業化、イノベーション】	【不平等】
6 安全な水とトイレを世界中に  すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。	8 働きがいも経済成長も  包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう  強靭なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。	10 人や国の不平等をなくそう  各国内及び各国間の不平等を是正する。
【持続可能な都市】	【持続可能な生産と消費】	【気候変動】	【海洋資源】	【陸上資源】
11 住み続けられるまちづくりを  包摂的で安全かつ強靭で持続可能な都市及び人間居住を実現する。	12 つくる責任つかう責任  持続可能な生産消費形態を確保する。	13 気候変動に具体的な対策を  気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。	14 海の豊かさを守ろう  持続可能な開発のためには海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。	15 陸の豊かさも守ろう  陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
【平和】	【実施手段】	～自治体がSDGsを推進するための取り組みの例～		
16 平和と公正をすべての人々  持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。	17 パートナーシップで目標を達成しよう  持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。	<p>持続可能な都市計画 インフラ整備、緑地の確保、交通の改善等。</p> <p>再生可能エネルギーの導入 エネルギーの効率的な利用や再生可能エネルギーの導入を通じて、温室効果ガスの削減やエネルギーの持続可能な供給を目指す。</p> <p>廃棄物の利活用 廃棄物をリサイクルし、廃棄物処理の効率化を図ることで、廃棄物削減と資源の持続可能な利用を目指す。</p> <p>教育と啓発 SDGsに関する教育や研修等を実施し、学生や住民にSDGsの理解を深め、行動を促す。</p>		

6. むらづくりで対応すべき課題

本村の特性や住民のむらづくりへの思い（アンケート調査結果）、時代の潮流等を踏まえ、これから的新しいむらづくりを進めていくために対応すべき主な課題を整理すると次のとおりとなります。

課題 1

人口減少、少子高齢化の進行に対応した、保健・医療や福祉・子育て支援体制の一層の充実や移住・定住施策の推進

健康・福祉へのニーズの対応

今後のむらづくりについて、住民アンケート調査では「健康・福祉のむら」への関心が最も高くなっています。本村では高齢化率が4割を超えて推移し、今後もその割合は増加することが見込まれています。一人暮らしや高齢者のみの世帯が増加していることから、介護や認知症予防など、いつまでも地域で元気で暮らすことができるよう、施策の充実が必要です。

子育て支援の充実

少子化の進む本村において、子育て支援の充実は、子どもたちの健康な成長だけでなく、村の持続的な発展に向けた重要な一歩です。

母親と子どもの健康を保護・促進するため、定期的な健診、栄養指導、予防接種などの母子保健施策を充実する必要があります。

また、地域の協力と連帯感は、子育ての成功に大きく貢献するため、地域コミュニティが子育て支援に参加し、子どもたちと家族をサポートする仕組みが整備されることが必要です。

移住・定住施策の充実

社会動態において、社会減が続いている本村では、村への移住・定住を促進させる取り組みが必要です。そのためには、豊かな自然や魅力的な観光資源など、地域特性や地域資源を活かしたむらづくりを進めて多彩な「大桑らしさ」を創造し、村内外へ村の魅力を発信することによって、移住者・定住者が増えるよう、人の流れを作り出すことが必要です。

また、村内外の方が本村に住み続けられるよう、雇用対策を推進し、安心して暮らせるための取り組みが必要です。

課題 2

新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた新しい生活様式への対応

働き方への影響

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染拡大を防ぐための緊急事態宣言や感染防止策が実施され、多くの企業がリモートワークを導入しました。これがきっかけとなり、その後多くの企業がリモートワークを一般的な選択肢として受け入れるようになりました。

村で働く人たちの柔軟な働き方を実現する手段として、リモートワークやビデオ会議ができるよう、環境整備を支援することが必要です。

教育への影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、多くの自治体で学校が一時的に休校となり、児童・生徒たちは学校での対面授業を受けることができなくなりました。

学校の休校に伴い、オンライン教育が急速に増加し、児童・生徒たちは自宅での学習を余儀なくされ、ビデオ会議ツールを使用して先生とコミュニケーションを取って授業を受けました。これらの経験を踏まえて導入した、タブレット端末・デジタル教科書・電子黒板等の活用や、さらなる拡充を図ることが必要です。

課題 3

デジタル化時代への対応

持続可能な行政サービスを目指して

地方自治体において、行財政改革により職員数が制約される中、多様化・複雑化する住民ニーズに対応しつつ、持続可能な行政サービスを提供することが求められています。

住民アンケート調査では、行政サービスがデジタル化されることにより期待されることについて、「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」「窓口で名前や住所が印字された申請書が 출력できて、何度も同じことを書かない」「届出や申請に必要な添付書類が減る」等が挙げられており、本村の行政運営においてもデジタル技術を活用し、快適・便利な村の実現を目指すことが重要です。

課題4

あらゆる脅威からの安全・安心の確保を見据えた環境づくり

自然災害への対応

長野県には多くの活断層があり、急峻な地形と脆弱な地質が特徴で、これに伴い地震など多くの災害が発生し、甚大な被害が発生してきました。

本村においても、同様に急峻な地形を有しており、土砂災害のリスクは高くなっています。さらに、大型化する台風や多発する豪雨による風水害、火山・地震対策など、様々なリスク・災害が想定され、対策が必要となっています。

サイバー犯罪への対応

近年、インターネットとデジタル技術の普及に伴いサイバー犯罪は増加し、多様化しています。偽のウェブサイトや電子メールを使用して、個人情報や金融情報を詐取したり、コンピュータウイルスを介してネットワークに不正にアクセスし、情報を盗んだり、システムを破壊することがあります。これらの脅威から住民や村の行財政運営を守るために、対策を講じる必要があります。

感染症等への対応

感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言下などの状況であっても、感染防止対策等の徹底を前提とした多岐にわたる継続的なサービスの提供が求められます。

特に介護サービスは、要介護者やその家族の生活を支える上で欠かせないものであり、施設・事業所内で感染症等が発生した場合の、感染拡大防止、業務継続などの対応を検討する必要があります。

課題 5

いつまでも住み続けられる大桑村を築くために

村の強み・魅力を活かした産業基盤の構築

村に住み続けるためには、安定した生活を築くための産業基盤をしっかりと整備する必要があります。本村は、第2次産業の就業率が高い産業構造を持っており、地元の木工業や自動車関連産業などが地域の雇用に大いに貢献しています。

一方で経営者の高齢化に伴う後継者不足は深刻化しており、人材育成・確保のサポートへの取り組みや阿寺渓谷をはじめとした村の豊かな自然を活かした産業・特産品の創出への取り組みが必要です。

すべての住民が住みよいむらづくり

小・中学生アンケートでは、大桑村に住み続けたいかの問いに小学生の 62.6%、中学生の 32.0% が『大桑村に住み続けたい』と答えています。小学生から中学生へと成長するにつれて、『大桑村に住み続けたい』と思う子どもたちが少なくなっていることに危機感を感じなければなりません。

一方で、大桑村のよいところについては、小学生・中学生ともに「自然が豊かだ」「人がやさしい」が多くなっています。大桑村の豊かで美しい自然はもちろんのこと、そこに住む友達や大人たちと触れ合って「人がやさしい」と感じています。

村に住む人たちの優しさ、あたたかさは大きな魅力であり、それを村内外にアピールすることは、村に住んでいる人が定住し続けること、また村外から移住者を呼び込むことに繋がるため、積極的に推進することが大切です。

さらに、すべての住民が住みよいむらづくりを実現するため、子どもや高齢者に配慮した施策の推進はもちろんのこと、障がいを持った方や外国籍の方への配慮、ジェンダーの平等に配慮した施策の推進を図る必要があります。